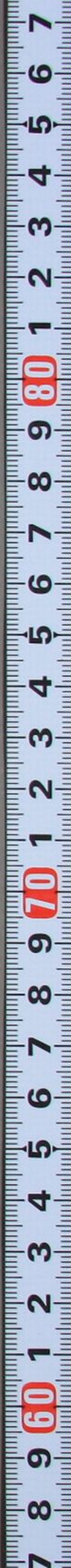
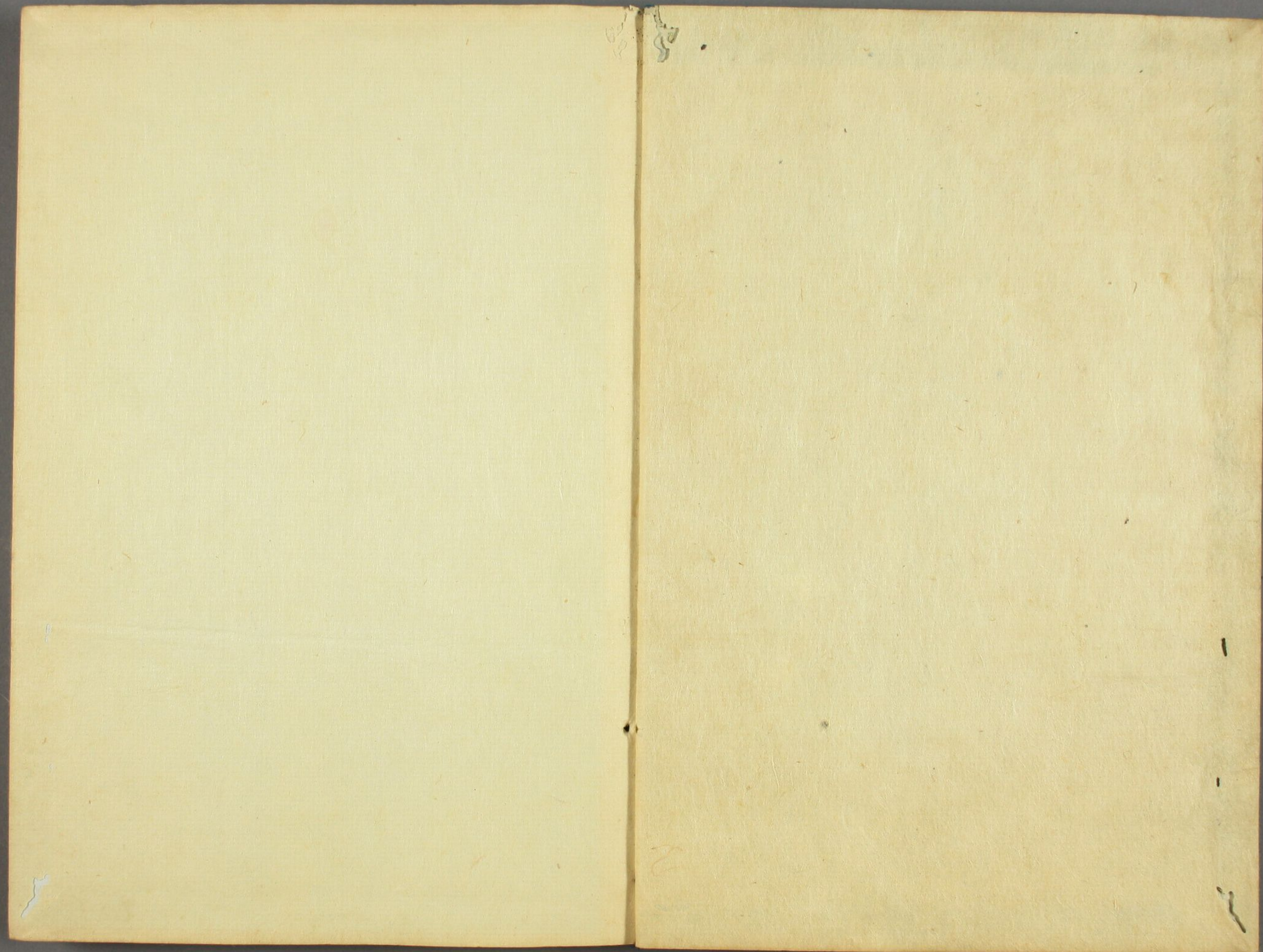




尾張名所圖會 前編

四





常知陽  
津和村  
秋永與七

尾張名所圖會卷之四

目錄 愛智郡

- |        |               |         |        |
|--------|---------------|---------|--------|
| 八劔神社   | 藏福寺           | 俳諧師桐葉故宅 | 布曝女町   |
| 海國寺    | 松妬神社          | 魔樋合     | 喜見寺    |
| 上知我麻神社 | 同初市の因         | 傳馬町驛舎   | 石地藏尊   |
| 乾徳寺    | 正覚寺           | 松風里     | 鈴御前社   |
| 松風里古覽  | 裁断橋           | 姥堂      | 織田越中守母 |
| 火高地古道  | 久々利が妻大力舟と引上り因 | 浮嶋原     | 呼續濱    |
| 政林寺    | 大師井           | 實相院     | 加藤圖書傳  |
| 呼續濱古覽  | 加藤全朔傳         | 勢田瀉     | 東御殿    |
| 寐覚里    | 神戸町           | 築地樓上の因  | 間遠渡    |
| 濱常夜燈   | 年魚市瀉          | 義教公行殿趾  | 勢田元服の式 |
| 魚市問屋   | 海藻            |         | 聖徳寺    |

尾張名所圖會

藏福寺

本遠寺	白衾神社	總持院	常滑君屋敷跡
興徳寺	三狐神社	扇の橋	景清祠
圓福寺	西福寺	織田信孝出生地	天祥菴
地藏院	大法寺	瀧の坊	夢違觀音
池殿屋敷	誓願寺	賴朝公誕生地	福重寺
政所	白鳥	法持寺	龍珠寺
南溟和尚の古事	清の茶屋	金毘羅宮	下知我麻神社
宮團扇	玉器	如法院	藤團子
機綾里	同元三松飾	義經元服地	鷲峯山
同汝干眺望の因	將軍塚	六地藏堂	宮谷觀音
夜寒里	同古覽	高藏宮	玉井里
澤觀音	住吉社	金山社	古城址
佐屋街道標石			

正一位八劍神社

本社のお三丁にあり、即割御子社の西にあたり

延喜

式に八劍神社いんげん本國帳に正一位八劍大名神とある

己和銅元年戊申九月九日寅の御鎮座して多治見真人池

守安倍朝臣實名と脱してさきとて後日本紀の小岩奈磨と見えたりと勅使して新造の室

劍と納め流りて八劍宮と稱し、また別宮として年中の祭

祀本社のごとく、熱田正縁起に見えたり ○本社祭神十座神

との神さかみとあり、あまの瀧にて私意を加へず細川玄吉比東國陣道記に熱

田に居陣社勢を授けの家にあり、又社傍法務坊からして難

波の次當社の内八劍宮、日本武尊よりお流りて後後白本社

所をとりけし、いんげんいんげんとあり、花の岩と見えたり 拜殿本社

にあり 樂所拜殿の東 御饌殿拜殿の西 末社本社の西にあり、心

延喜式に出雲國大原郡八口神社と同例の神あり、其國の梓葉社地に大

原郡斐伊郷中籤川邊に杉八本ありて蛇、改とあり、仁田郡尾原村に蛇、尾と

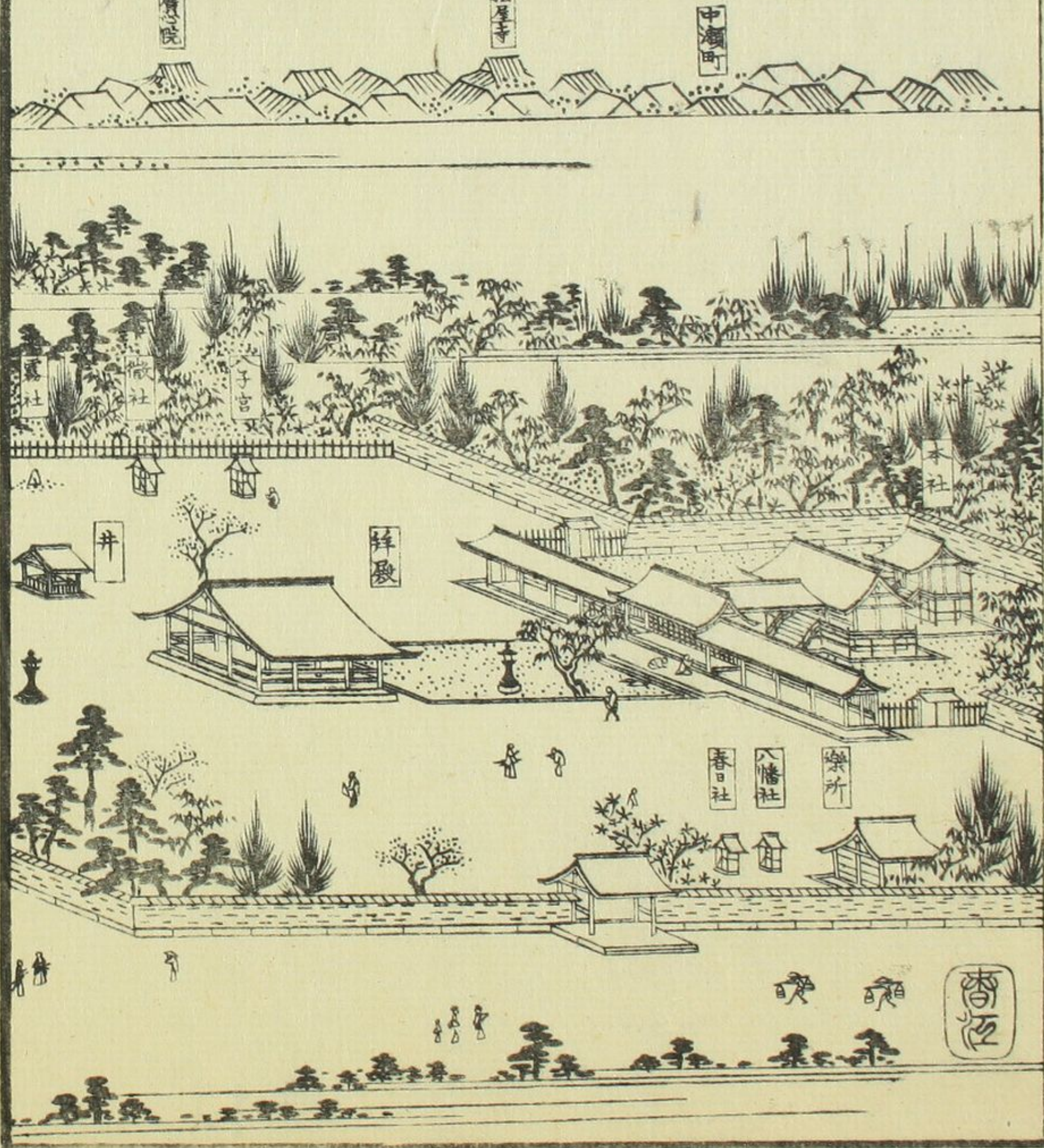
あり、石室大明神と号す、之を八口神社と云ふ、日本紀に有、天蛇頭

の美八劍、尾に八岐りて表り、うへに八岐りて裏り、八子社の南にあり、建御名方命を

あり、尾あり、す、住吉社春日社 霧社 八幡社 等東西にあり

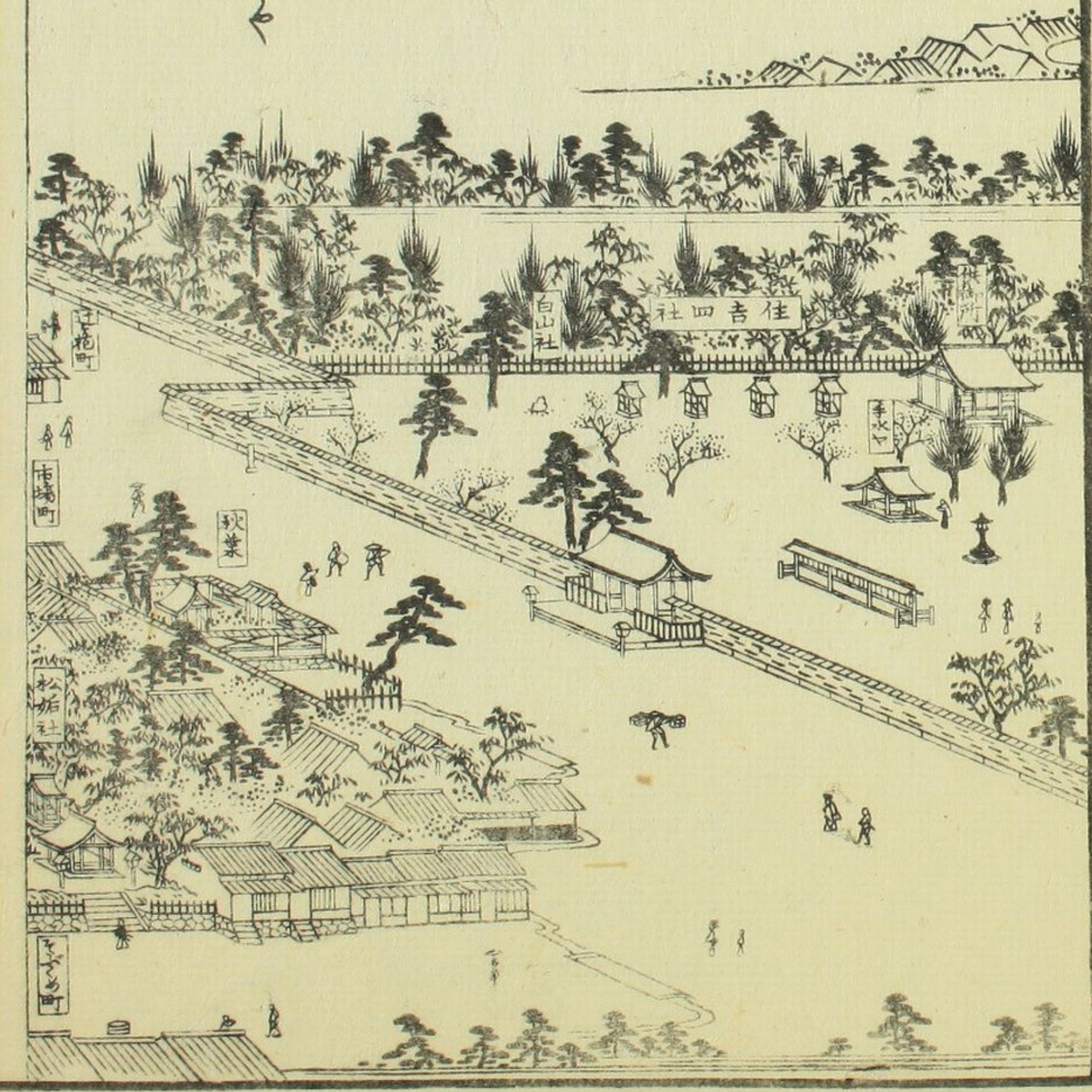
八劔宮

陸奥 八劔宮  
鎮座之歳至  
于今五丁亥  
實一千年矣  
賦一絶奉祝  
信景  
東風新眼  
舊山川且  
喜龍坤瑞  
氣鮮華表  
春歸蓬鳴

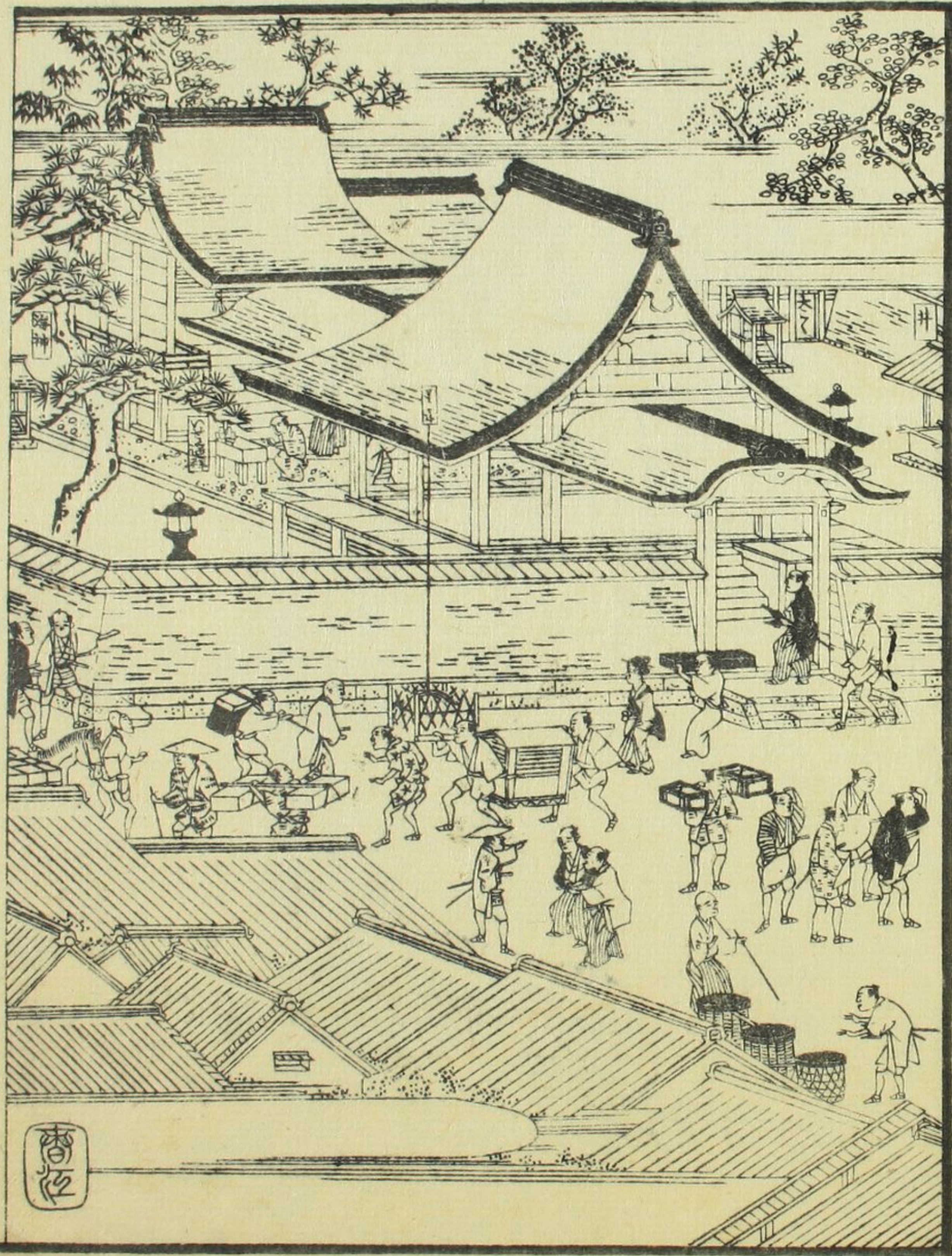


鶴龍光鎮  
國一千年

長坂正心  
清光此  
光  
世  
也







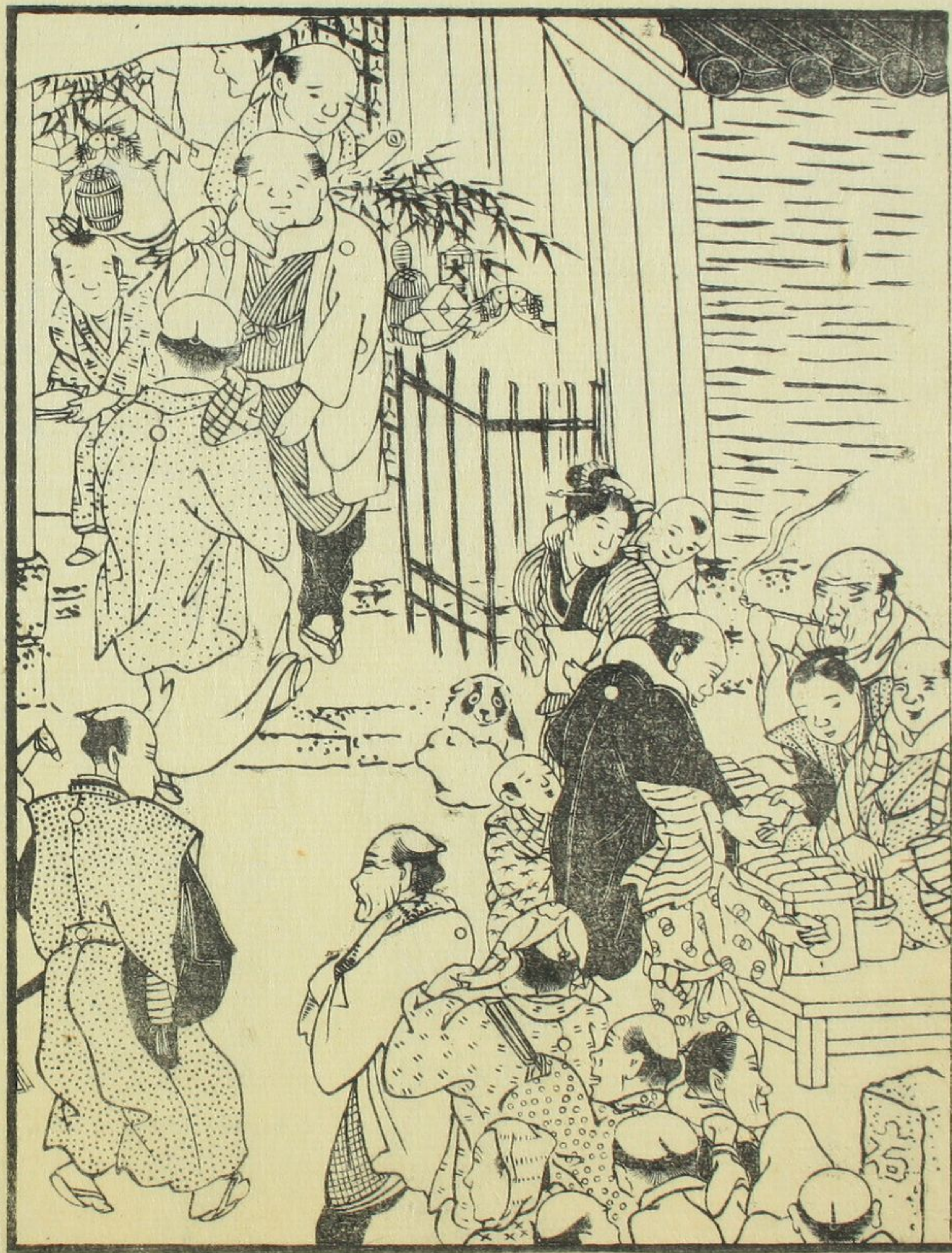
香煙

源大夫社



四三

源大夫社  
初市





雲龍山喜見寺春養院

因所にあり真言宗多於智養院末弘法二年加蓋  
車入入道全朝建主して推大治邦堯瑜と開山と  
すといひ傳房六院りて堂宇覺と並べ境内も廣大ありしと  
寛文七年傳良招再興して古の十ヶ一とて主智養院の末寺と  
を舊坊の六區  
を旧地の一宇存在す  
本尊 十一面觀音 胎壇の不動明  
大師の井 境内に  
春養院一宇存在す

上知我麻神社

市場町通傳馬町の西にあり俗に源太夫社又  
智恵の文珠ともいふ熱田杉社七所の一社あり

延喜式に上

知我麻神社本國帳に正二位上知我麻名神といふ是なり

千我麻ハ郷名少ク和名抄に愛智郡千竈といふハあり

の事ハ或ハ今此星崎村の色ありともいひて性あらずされども

此神のこゝに法をたるといふと志むくありと千竈といふの

事ハ小豊命ハ尾張氏の遠祖ゆゑ古國の國造少ク舊事紀

の國造本紀に尾張國造志賀高穴穗朝以天別天火明命十

世孫小止与命定賜國造といふなり○末社海神祠 大黒

天祠 境内にあり毎年正月五日の初市に惠比須大黒の摺籠といふ又西福餅

傳馬町驛舎 延喜兵部省式に尾張國傳馬驛馬の負と記すといふ熱田ハ

とていふ所の説ありといふこととせす東海道のいふ所の説書といふに

契田林泊の事見たりむりハ古街道ニ筋あり今道のり地龍院の古院文に見  
え永祿のより人家立つき町並あり東海道五十三次の一駅少クて並茶他に  
はなし

契田林泊の事見たりむりハ古街道ニ筋あり今道のり地龍院の古院文に見  
え永祿のより人家立つき町並あり東海道五十三次の一駅少クて並茶他に  
はなし

石地藏尊

傳馬町中流に在り此地龍院といひ傳三河國重村にありて中中に形  
不足して石のやありと地蔵といふの三河より尾張に來りて中中に形  
石佛と佛の形に捨ててありと云ふ所の者見たりて安んずるが文に起  
上りたりとありてみて中の中とて上げんといふに中中に佛の形あり  
是より角石の埋めて置ければ者不思議の奇遇ありとて石と地蔵といひ傳と  
傳馬町の石地藏尊といふなり

蓬雲山乾徳寺

因所中流にあり延喜年中の創  
本尊 阿彌陀  
鎮守 稻荷  
祠

龜足山正覚寺

因所今道の北側にあり浄土宗西山派高林禪  
當寺ハ永享

六年融傳永乘和尚創建也融傳部田の祐福寺任持あり

時契田大神と信仰して志むく事官せしに或時冷宮の例

して老翁に達けり我ハ當社の神職粟田城を免也師に此

地と寄附す一精舎と造立一衆生と利益す一言説

て去り其行方と云ふ契田日融傳彼城大夫が宅にあり

鈴御前

大官日季雄

清菰川

きり

らに

の麻と

の

の麻乃

井や

ら

と

何い

の

の

夕



過正覚寺

滄洲

偶出紅塵陌經過

樹林風光院落靜雲

物松杉深不作攢眉

態堪生禮足心琅

雷鼓響更為盪胸襟

猛彦

くまに今一の

も

の

の

松風里  
正覚寺



香

前夜の約と説話等に城大夫の前夜見一老翁にいわく  
 全余人あり且其約とありさるるあり其と寄附せんといひ  
 地も亦城大夫が有といわく地も他人ありさるる城大夫  
 つらつらおひらる大神我に託していざん示現ましくけ  
 りと彼地を許にけりといふと語を合せり地も地も  
 大神の神意あるものとさる終に其地と融傳に授るると  
 夫より堂宇と造立して住職あり永享九年四月十一日寂す  
 融傳或時法橋寺より安田に流しつて海山と越へて忽ち一足わく大まの口と  
 聞き融傳はむらひてたよりよき煙喉におのつて怒りてやすあまの根の口  
 手ときと彼處をふかたんに果て稜角の骨ありて指ハまほびるま由  
 杖と振と融傳と俯仰拝謝して去りて又五日山申して湯にりるま 錫  
 杖といふ地と寄附るは忽ち融傳の湯と潤りて又五日山申して湯にりるま 錫  
 鳴沙山中にありて融傳泉と稱する是より融傳の道徳意いなり 本尊  
 大膳高勝之の持念佛眼壇に 鎮守 水上 龜足井 本堂の例にあり岡山融傳熱  
 十一面觀音地藏尊の安置す 神社 龜足井 田の 神勅によつて此所と  
 らせりるに大あり龜足といふあり 寺寶 といふ其まうり果羊の回添にり  
 是山号の起るありて其旧井あり 曼陀羅其古幅りて実に千有余年のあり天平 宝字七年の文字令限るまうり  
 消のりてりるまうり日蓮宗連署状及び 東照宮朱章印と宗論記等あり

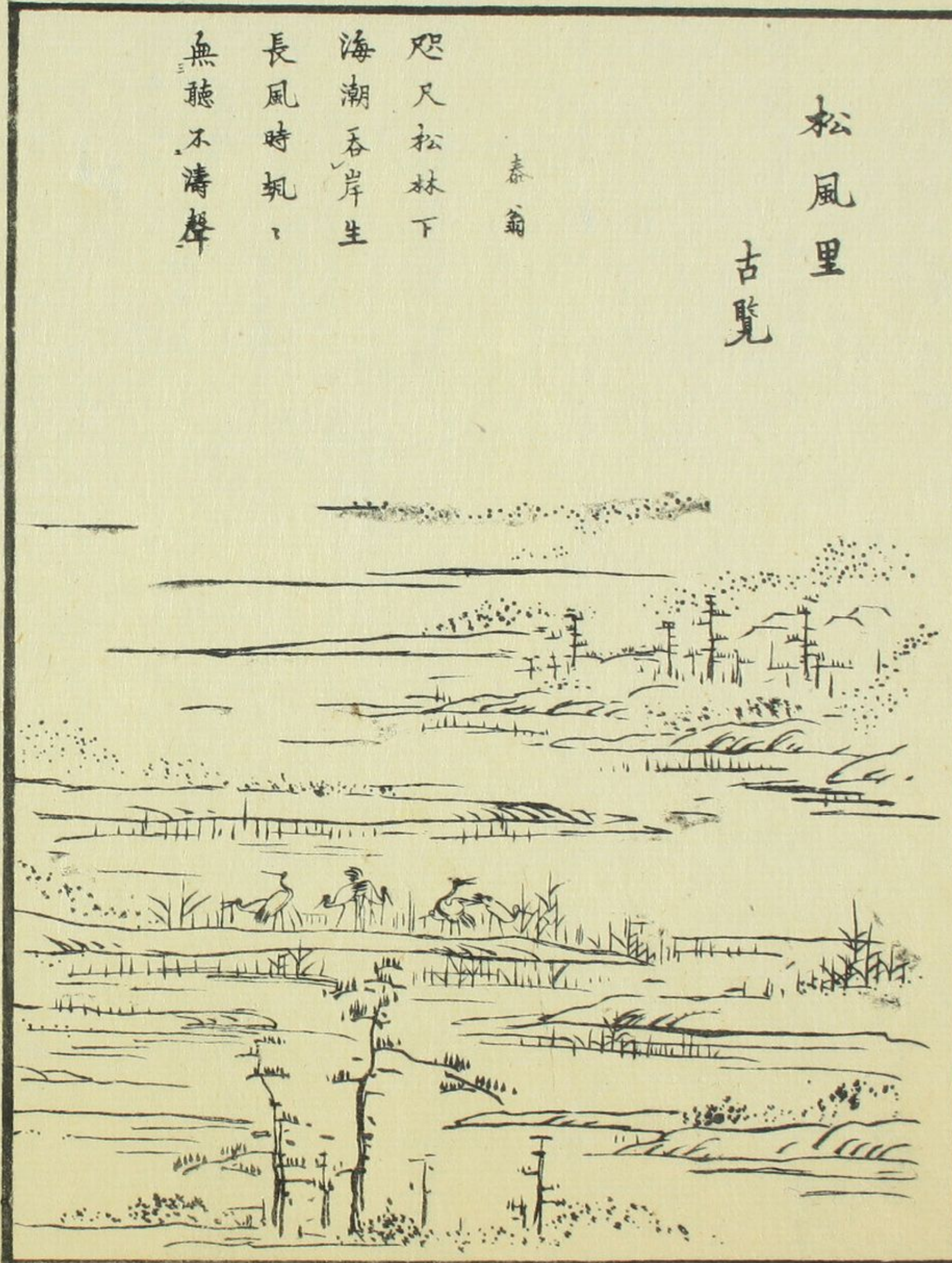
十三世の住持以道と武藏國常樂院日経と浄土日蓮と宗勝とと流りたるが終に  
 慶長十三年 神君此御前にあつて法侯方列座以道日経宗論りて日経浄土は  
 けく其意状と形おせり又法に伊せまき日経が袈裟衣して今に以寺に流す  
 今板行本とて流布す浄土日蓮宗論記とるものあり其の流りたるまうり  
 今の外古書古画も多し又 後花園天皇後陽成天皇の 塔頭 といふ立院ありて退治して今  
 宸翰及び 國君此御真筆と多し流り 塔頭 といふ立院ありて退治して今  
 松風里 夫木抄と知藤流葉松葉集に松風の里と尾張の岩所と其地走りありて厚覽州に  
 松風の里と名ありて其地走りありて厚覽州に  
 松風里 夫木抄と知藤流葉松葉集に松風の里と尾張の岩所と其地走りありて厚覽州に

松風里にむきわく其名流りてせまわらるるま  
 浦ちうくまに訓束と名流りて松風の里 冷泉為春卿  
 旅枕は大海のむら秋の此月にけり松風の里 法橋紹巴  
 いそをさるるに村をけり松風の里 栗田寺業  
 句集 松風里ハ 和らりて 鹿野  
 鈴御前社 正覺寺の東にけり祭神天鈿女命六月晦日の名越の越ハ大官の事ありて  
 此社の川岸にて侍する人ありて其社の事事の如くありて切安田社人一統  
 處におく其の端と傍に五串に五色の幣と各社各社の葉に白木修つて解  
 除す奇觀ありて是をそのの聲とありて又此夜傳馬所若今道木のまうり教ま  
 の作らんとありて  
 大あり極合り

松風里  
古覽

春翁

咫尺松林下  
海潮吞岸生  
長風時吼  
無聽不濤聲



白鵬

松籟傳琴韻  
雨寒亂鶴聲  
晨昏聽不絕  
認得古鄉名



書  
記

裁断橋

傳馬所の東精進川に渡せり... 及び昔本の今昔物語にのせり... 聖武天皇の御守中島郡の太... 領之其妻の愛智郡片純里の出生道場法師の孫あり... 夫に種い葉順ありて又... 女工に精進し清く潔く織を織りて... 時に國司若按部其妻の葉順ありて又... 太依に... 夫に利を... 夫は床と... 里に... 女と... 一所... 此路に...

姓堂

裁断橋の西法南例にあり時宗龜井山園福寺の末流あり... 比幸順僧都... 三途川の娘... 老母ありて彼僧の衣教を... 三途川の娘此像と女を... 三途川の娘此像と女を...

織田越中守母

天文の初葉田の商家に一人の娘あり... 尾張中一の美人あり... 父母武家奉公と... 信秀怒り多人殺せり... 信元... 信長... 織田の神庫の室にお... 尾陽雜記に... 長劍一振あり... 日本武尊水上の宮篁媛

火高地古道

裁断橋北東築出所に... 日本武尊水上の宮篁媛

久玖利が妻に大力  
舟と引上る圖



命の作へ通る道狭い一古道此跡より町家二三軒が都へ向け  
て今に家と造らるる家作して住居するものなりは息神界  
の祟りありしを寛平縁起の 日本武尊の清歌に 奈留  
美良乎美也禮波止保志比多加知尔已乃由不志保尔和  
多良部牟加毛よみ狭い一古道あり

呼續濱

日本武尊氷上へついでに呼續濱に古道汝干よはるる濱より一浦瀬ハ濱ら  
又方角抄によひはるる濱に海士れ家居りて陸をゆく  
又方角抄によひはるる濱に海士れ家居りて陸をゆく  
又方角抄によひはるる濱に海士れ家居りて陸をゆく

新羅若連 呼續濱の海井のちにけりておとよみはるる濱の申に渡りて  
又方角抄によひはるる濱に海士れ家居りて陸をゆく  
又方角抄によひはるる濱に海士れ家居りて陸をゆく  
又方角抄によひはるる濱に海士れ家居りて陸をゆく

周岳山政林寺

葉田町にあり修験宗布曝女所海國寺末元龜元年加藤國  
書勲入道順正の創建なり周山僧仁峯ハ其一族あり

本尊

正觀寺の  
木像あり

大師井

因所の東にあり弘仁年中弘法大師は地に九井と  
辨ちし其一二の井ありては地に九井と畧し

浮島ヶ原

裁新橋の一所にあり東に一堆の塚山に老松四五株ありと年山戸も  
洪水高潮は此水災に比せぬ人並と海一或は樹木と依り田畑と被傷するものあり

加藤圖書助順盛

加藤氏ハ久き勢田地士中世羽城の内精進川の東  
の岸に第宅と樓居りて 東照宮清幼年の時故の  
月四日加藤圖書助が新地の攝まで海と堀より松濠ありて出入りし所  
ありて 子の汝は入はるる秋の夜 松濠ありて 桶狭合戦の時信長は勢田に  
變前に勢田より入はるる加藤圖書助殿此下に伺候せしと信長は神河原の勢田に  
の軍にかけし作られて清盛ありて 勢田の守り清盛は清盛の守り信長は今日  
の者及びお入の軍に付竹竿及び清道具取持して清盛の守り信長は今日  
の軍にかけし作られて清盛ありて 勢田の守り清盛は清盛の守り信長は今日  
の者及びお入の軍に付竹竿及び清道具取持して清盛の守り信長は今日  
の軍にかけし作られて清盛ありて 勢田の守り清盛は清盛の守り信長は今日  
の者及びお入の軍に付竹竿及び清道具取持して清盛の守り信長は今日  
の軍にかけし作られて清盛ありて 勢田の守り清盛は清盛の守り信長は今日  
の者及びお入の軍に付竹竿及び清道具取持して清盛の守り信長は今日  
の軍にかけし作られて清盛ありて 勢田の守り清盛は清盛の守り信長は今日  
の者及びお入の軍に付竹竿及び清道具取持して清盛の守り信長は今日





呼續濱古覽

冷泉馬村脚

新候題林

あゝ〜子も

あゝ〜に友と

よひつきれ

あゝ〜



土御門春邦卿

東行話説  
松風や

よきむの里よ

なきてすむ

つゝいふと

よひつたの

屋



鳴海馬

屋



熱田瀧

熱田瀧 尾張に尾張と云ふは熱田の尾張は伊勢物語に昔  
男在計利花浴ふ存佐而熱間江住計流ふ妹昔尾張境  
渡東白立乎視而家敷過住方之應敷ふ浦山敷  
毛果也哉 諸讀利流 ありハハハヤリ

鳥丸亮廣  
身延也 伊勢尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
身延也 伊勢尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること

僧元政  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること

契沖  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること

横井時敏  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること

植松有信  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること

僧日潤  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること

伊勢尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること

伊勢尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること

間遠渡

間遠渡 此遠より伊勢の兼名へ 天武天皇大友の皇子の乱と云けて本國  
小下里移し伊勢より尾張へ渡らば移し一時舟船く着岸せ

伊勢尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること

伊勢尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること

伊勢尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること

伊勢尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること

伊勢尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること

伊勢尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること

伊勢尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること

伊勢尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること

伊勢尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること

伊勢尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること

伊勢尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること

伊勢尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること

伊勢尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること

伊勢尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること

伊勢尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること

伊勢尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること

伊勢尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること  
尾張の尾張のありふること

景此後小富りかあづ  
着岸すも追風に任す真帆の早きかあづ山海の美  
小居あり眺めやうて双眸いすも間遠ありもおわいぬ  
よりいづこり此海上七里のる尾勢二國のありゆ風光船底  
ざりしをいづこりして間遠ありと仰らるるより志ら名づけし

林羅山  
浪鷓使舟 雀軸季秋天曉向東名發熱田中有白頭看白  
廿四日之夜覽九月十與郎罷同日從源豆州平松  
信細中自焚田乘官船渡海明日到桑名作古  
詩一篇以述事實 驛亭暫憩休本州西棹  
使勤命更贈彩舟 泱旬之際五馬後到此同棹  
文流船揚聲推播 坤浮聞兵衛建戈牙東西南北  
千里目浩湯門乾 太真院渺茫問津揚通幽元是  
某宮裏遊春叩 仙境何為道阿誰乘樽追孔丘  
然冥不通信 雁飛魚躍上道感得人乘樽追孔丘  
揮筆讀玄虛 賦蟲測智淺愧元劉有酒有茶又有  
豐曉欲清水 嗽乾糞 屋上望中多景 簾偏好釣潮滿風穩

葵未紀行  
葵未紀行 葵未紀行 葵未紀行 葵未紀行

葵未紀行  
葵未紀行 葵未紀行 葵未紀行 葵未紀行

葵未紀行  
葵未紀行 葵未紀行 葵未紀行 葵未紀行

葵未紀行  
葵未紀行 葵未紀行 葵未紀行 葵未紀行

葵未紀行  
葵未紀行 葵未紀行 葵未紀行 葵未紀行

葵未紀行  
葵未紀行 葵未紀行 葵未紀行 葵未紀行

葵未紀行  
葵未紀行 葵未紀行 葵未紀行 葵未紀行

葵未紀行  
葵未紀行 葵未紀行 葵未紀行 葵未紀行

葵未紀行  
葵未紀行 葵未紀行 葵未紀行 葵未紀行

葵未紀行  
葵未紀行 葵未紀行 葵未紀行 葵未紀行

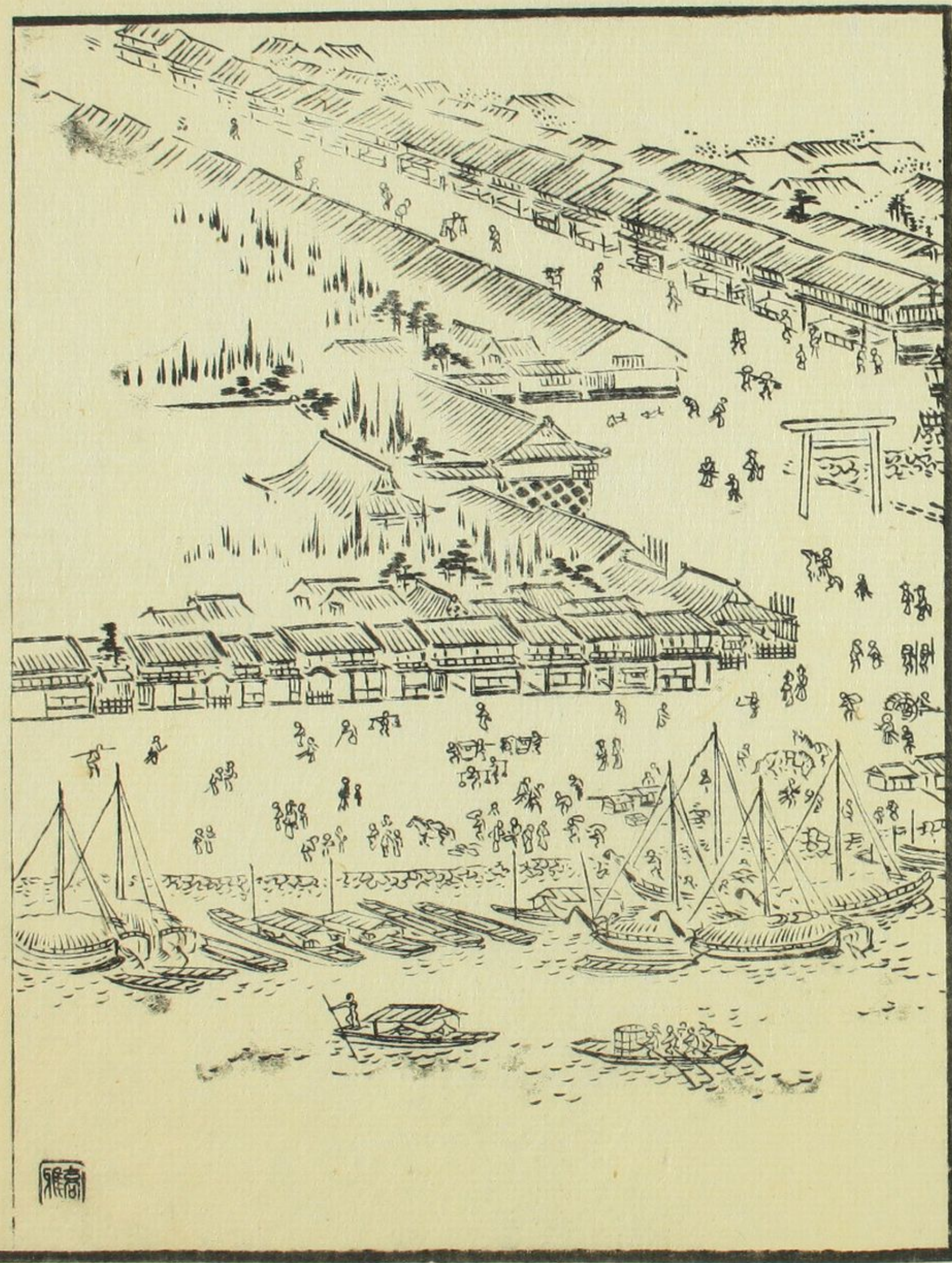
葵未紀行  
葵未紀行 葵未紀行 葵未紀行 葵未紀行

葵未紀行  
葵未紀行 葵未紀行 葵未紀行 葵未紀行

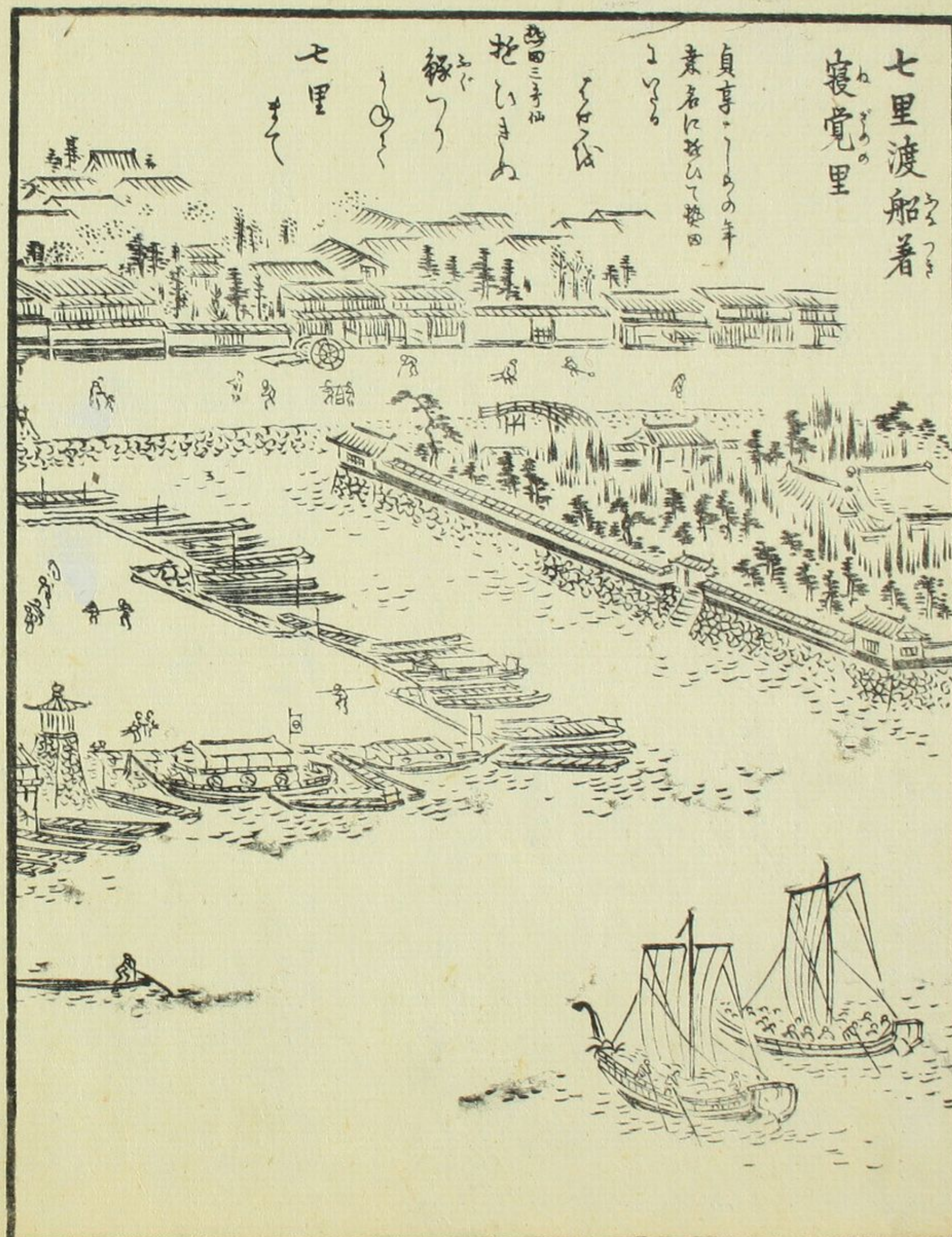
葵未紀行  
葵未紀行 葵未紀行 葵未紀行 葵未紀行

葵未紀行  
葵未紀行 葵未紀行 葵未紀行 葵未紀行

葵未紀行  
葵未紀行 葵未紀行 葵未紀行 葵未紀行



熊谷



七里渡船着  
寢覚里

貞享一丁の年  
煮名に於いて換四  
よつ

西三寺山  
たしまわ

録

七里

ま







高



築地 樓上の遊興

田樂  
 ちんちんの  
 勢田  
 多き  
 宮井  
 溪  
 丹

熱田元服の式畧

毎年初午に熱田西浦東浦に若き者ども元服して其名を改むるを元服とて去年元服せし者どもと清治は其式を元服に倣て日中に若者批灯とて元服の儀やうなり其時にも三斗ぐりかきとむりて其時の方より取柄れ者大勢おき若者おきおきい素肉と魚道のりひつ、四五町にさざり所と置以りかき若き者にまきあつく拾帳のらむむとて又途中より若きといひ取柄の者よりあつたりたつ小石一つとんく大なる若者といひ水のこぼきたんと居き河あつて流らぬをいひ其まことに大勢あつて石と堀れ木をりて流へせ水に橋とていひいひかきあつのかきき式あつていひと異に



河内ちと夕暮や一様人の道々うら沖ふと色あけ  
 蕨本田久老

あゆちと春の曙あつて色いあふと暮る伊勢の青山 服

魚市問屋 木の丸浦より木の芳代漢也 当初信長公清須を城の以りて漢小

問屋数軒あつて毎日清須小運送せりて志々も年々

て其創業の年月洋前灰夫より連綿して絶えざりか寛永

のころに問屋株定りて

ゆもく紫冒一日ごと 年中朝市夕市一日 小億兆の魚介とてに

湊へて國産の海真いより近國産をよりも船積して運送

又三河の吉田よりいふゆりあつていふ送ると六朝の間を

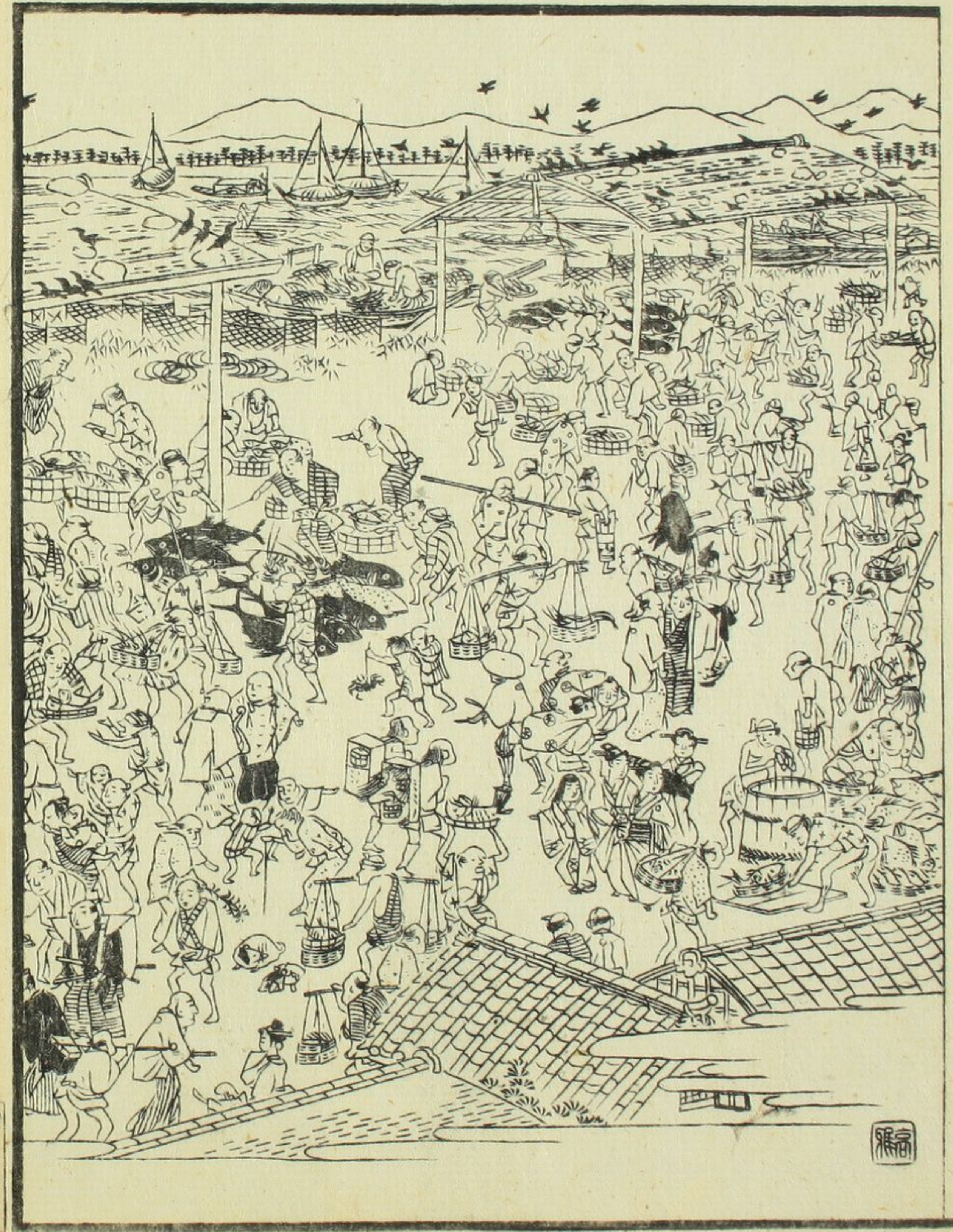
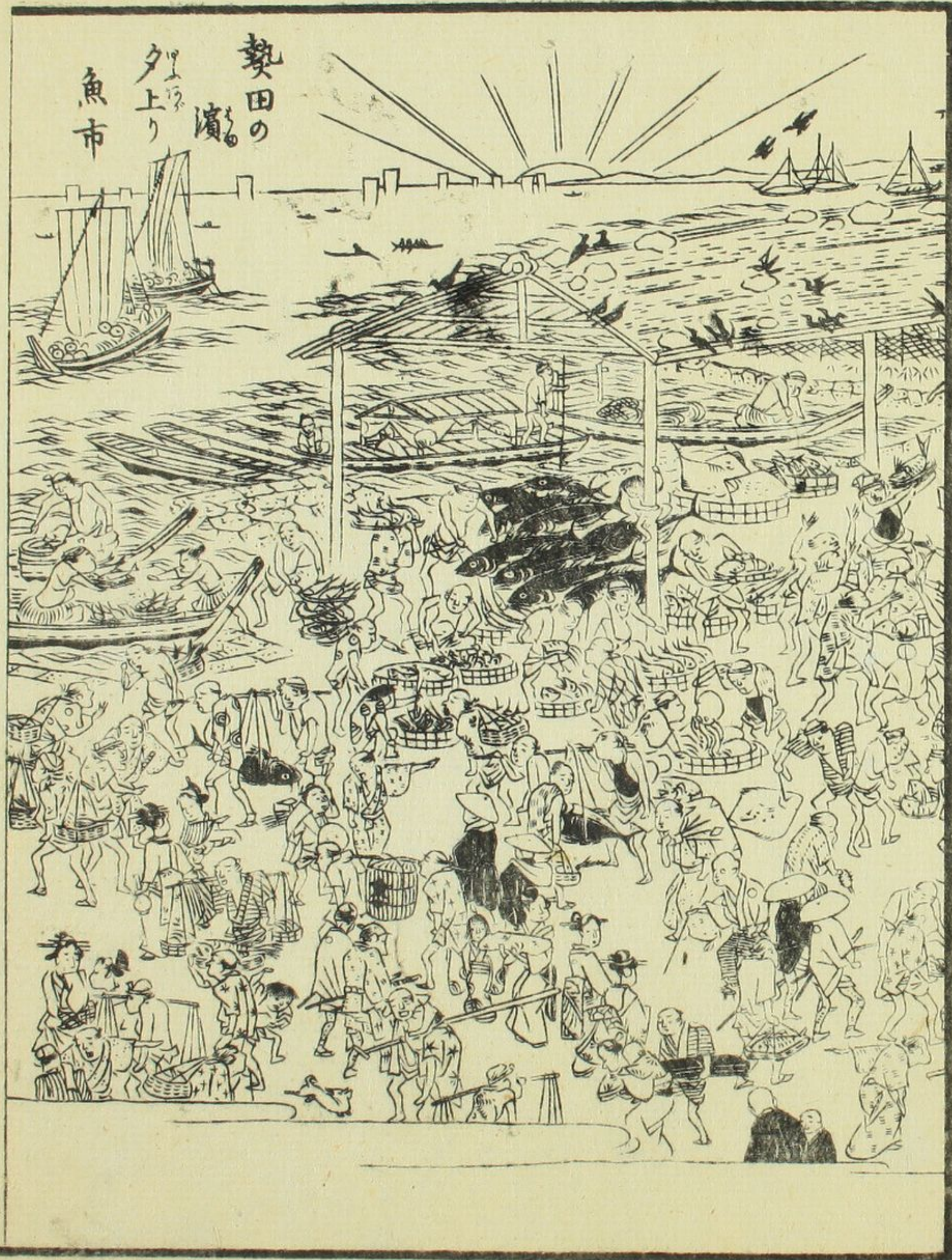
きもこれを即時小賣捌けていふ擔夫羣とあつて雷同ものいふ

いふいふにそのあつていふいふて國內いふいふ美濃信

濃までいふいふていふいふ送るといふいふ名産とて魚甚多今

什が一ニと奉ていふいふ所産のまに就て形状風味と記すべ





鰯魚 豊田浦より初産するは少く、後、すくすくとして一尺二尺に達す。其味他國に比して、殊に佳し。

魚 品類多し。又志女阿以奈、跋登和賀、京女郎の各あり。皆、名色形に優りて、名に似たり。皆、その名に似たり。海産石上の魚。

牡蠣 高浦及び多浦より大を捕す。其味、古事記の記に、那都久佐能阿比泥能波能能加岐賀比とあり。其の事、人あまき、然らず。地産の地名、太閤記の大伴殿建立に、蛸賣き万俵伊勢尾流より、蛤、高浦一色川のあたりに、聖武天皇の御世、愛智郡片橋里の力女、蛤五十斛と捕て、

美濃之魚 紀伊、古来より蛤の多きとあり。其の味、古事記の記に、那都久佐能阿比泥能波能能加岐賀比とあり。其の事、人あまき、然らず。地産の地名、太閤記の大伴殿建立に、蛸賣き万俵伊勢尾流より、蛤、高浦一色川のあたりに、聖武天皇の御世、愛智郡片橋里の力女、蛤五十斛と捕て、

魚 品類多し。又志女阿以奈、跋登和賀、京女郎の各あり。皆、名色形に優りて、名に似たり。皆、その名に似たり。海産石上の魚。

魚 品類多し。又志女阿以奈、跋登和賀、京女郎の各あり。皆、名色形に優りて、名に似たり。皆、その名に似たり。海産石上の魚。

魚 品類多し。又志女阿以奈、跋登和賀、京女郎の各あり。皆、名色形に優りて、名に似たり。皆、その名に似たり。海産石上の魚。

魚 品類多し。又志女阿以奈、跋登和賀、京女郎の各あり。皆、名色形に優りて、名に似たり。皆、その名に似たり。海産石上の魚。

魚 品類多し。又志女阿以奈、跋登和賀、京女郎の各あり。皆、名色形に優りて、名に似たり。皆、その名に似たり。海産石上の魚。

魚 品類多し。又志女阿以奈、跋登和賀、京女郎の各あり。皆、名色形に優りて、名に似たり。皆、その名に似たり。海産石上の魚。

魚 品類多し。又志女阿以奈、跋登和賀、京女郎の各あり。皆、名色形に優りて、名に似たり。皆、その名に似たり。海産石上の魚。

魚 品類多し。又志女阿以奈、跋登和賀、京女郎の各あり。皆、名色形に優りて、名に似たり。皆、その名に似たり。海産石上の魚。

魚 品類多し。又志女阿以奈、跋登和賀、京女郎の各あり。皆、名色形に優りて、名に似たり。皆、その名に似たり。海産石上の魚。

地圖の表

海藻 豊田の浦より、わし色、まきく、私製のみ、延喜式、民部省、交易、雜物、のうちに、尾の宮内省の帝に、正月三日、節料、例、貢、御、費、に、伊勢の、鮎、鱈、尾、張、の、海、藻、を、見、し、り、今、三、海、苔、の、お、ひ、あ、る、べ、い、ま、か、ま、海、苔、の、海、藻、を、見、し、り、

義教公行殿趾 大炊古町城の内、西にあり。永享四年、足利義教、富士、御、覽、序、下、向、の、時、大、官、司、の、命、に、依、り、馬、場、左、右、奉、行、一、新、に、假、殿、と、造、堂、一、入、り、し、り、二、日、沖、運、留、り、て、龜、井、送、坊、へ、も、成、ら、せ、ら、し、和、致、の、會、を、あ、り、し、り、行、殿、の、跡、に、あ、り、し、り、

龜服山聖徳寺 須賀浦の太子町にあり。淨土宗、西山派、當、所、正、覺、寺、未、あり、永、祿、七、年、七、月、の、岡、基、寺、を、當、浦、の、漁、人、助、太、夫、と、り、入、者、文、祿、四、年、九、月、廿、九、日、の、夜、海、底、より、網、り、し、り、聖、徳、太、子、十、六、歳、の、御、像、と、太、子、堂、に、奉、置、し、り、寺、号、を、一、つ、り、町、名、に、な、し、り、し、り、

妙光山本遠寺 白多比南の田中町にあり。日蓮宗、本、遠、寺、未、あり、

日證應安年中建立して、康暦二年八月朔日、最、年、百、二十、余、歳、勅、し、り、本、衆、阿、闍、梨、の、号、と、贈、り、し、り、永、祿、十、年、八、月、七、日、法、華、堂、

本遠寺ありて、連、教、強、け、り、し、り、一、つ、り、紹、巴、が、富、士、見、道、記、に、み、え、り、し、り、

○本尊 釈迦の木像、彫、檀、に、鬼、子、母、神、日、蓮、の、像、及、び、十、羅、刹、女、日、朗、日、證、の、教、像、と、安、土、す、む、り、日、蓮、宗、國、より、傳、來、の、時、一、百、日、法、經、を、法、華、堂、に、奉、置、し、り、

御本社、の、境、内、に、あり、し、り、と、初、古、等、客、殿、織、田、信、長、の、書、院、と、し、り、し、り、二、天、門、妙、

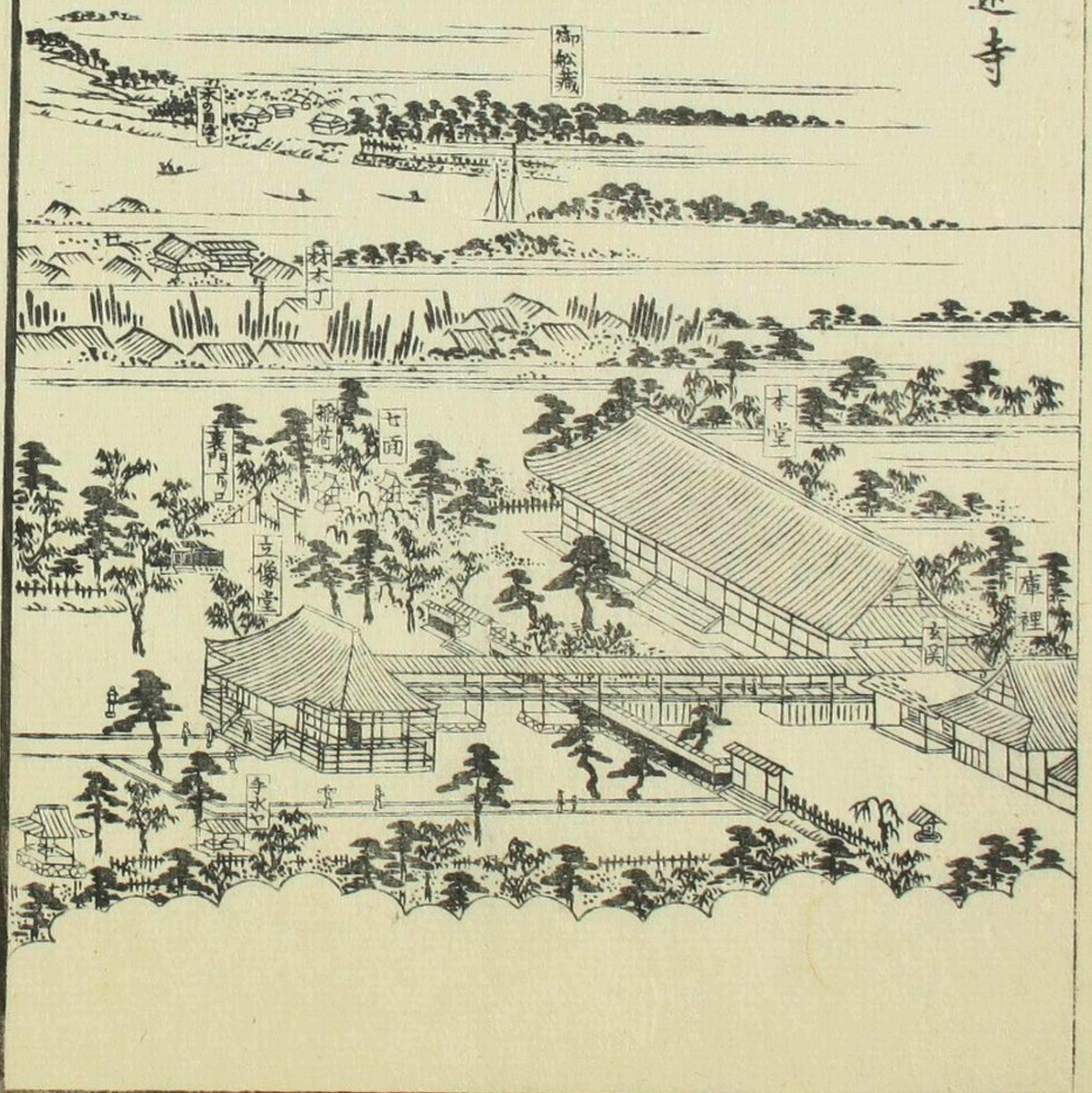
客殿 織田信長の書院とあり。二天門妙

客殿 織田信長の書院とあり。二天門妙

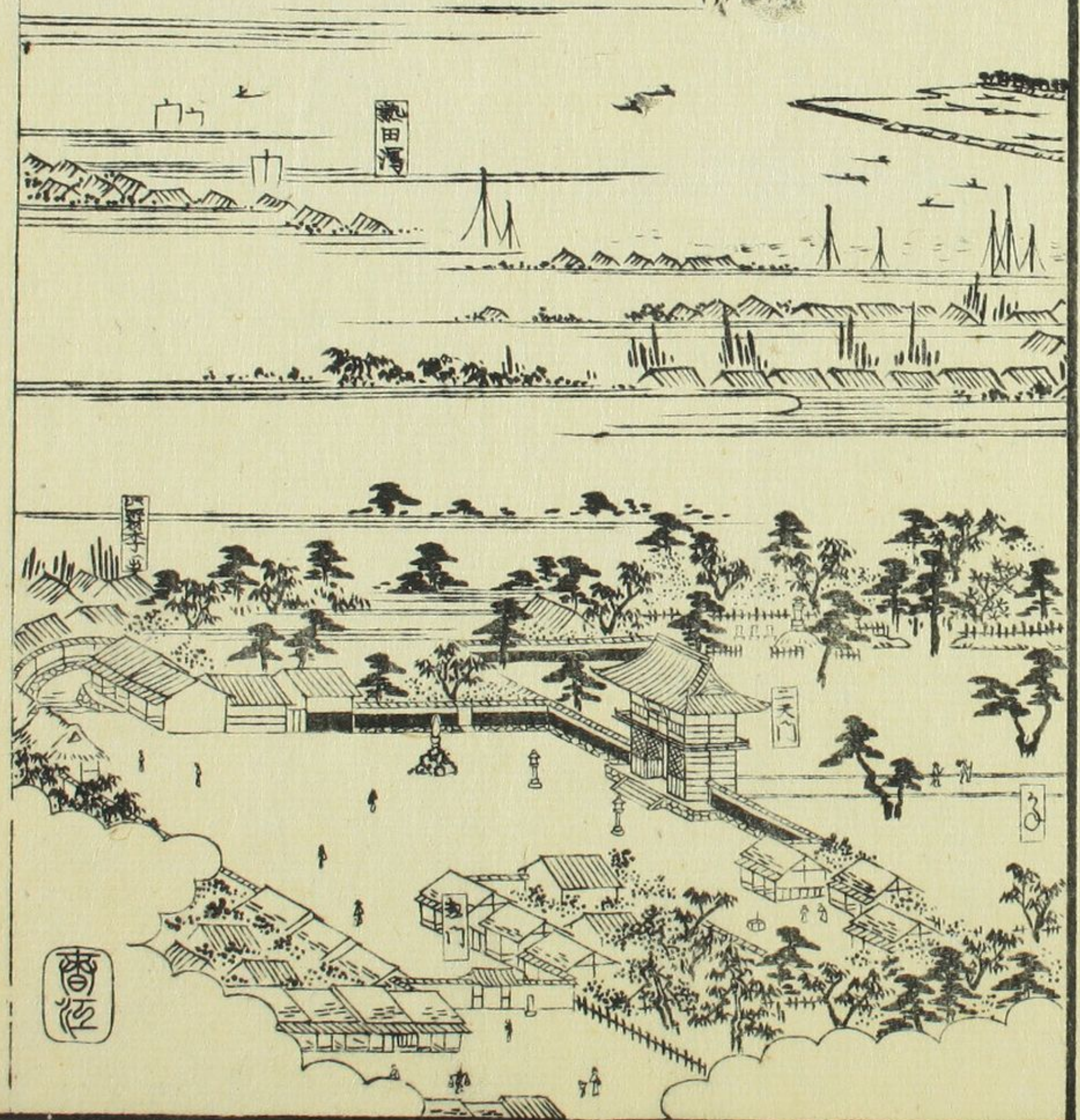
客殿 織田信長の書院とあり。二天門妙

法華堂本遠寺

當寺をそ  
より西南と  
なり要田  
の森に滄  
海と一目  
行ふ布帆  
艇ももさ  
く舟に取  
く港景又  
汁ももさ  
堂内に小  
床と挿へ  
寺僧も治  
れ法人と



法華堂  
志すう  
修行  
張巴  
富士見道記  
ふや  
その月  
保光  
みまけ  
はま  
こま



見社 鐘樓等あり

青余神社

田中にある延喜神名式に青余神社本國神名帳に正二位青余社新水上祠

瑞現山總持院

因所にある臨海宗美濃の久利の東禪寺本宗人南郡妙法

常滑君屋敷

須賀町にあり水野忠政の女知多郡常滑の城之水也

海洞山興徳寺

因所にある海士真宗東派河内府の勝譽寺本堂宇願美羅

本尊

阿彌陀の木像

什寶

親孝聖人古事記に緋紙金屋十字名号及び蓮如上人華北古字形跡の名号も教品あり

三狐神社

表大坂古にあり任に平親

扇の橋

因所にあり武將門の首と埋りしり侍人被ね門八米あり

景清社

因所東方にあり平家の勇士悪七景清大官日比野あり

東鑑源平盛衰記平家物語此景清に景清景田にあり

龜井山圓福寺

上知加麻社の西にあり時宗系四系

當寺

天台の古刹

遊行他阿上人の降依一宗と改め此寺と中興して任持あり

觀音堂

大日如来及び三十三所の觀音と女臣す

開山堂

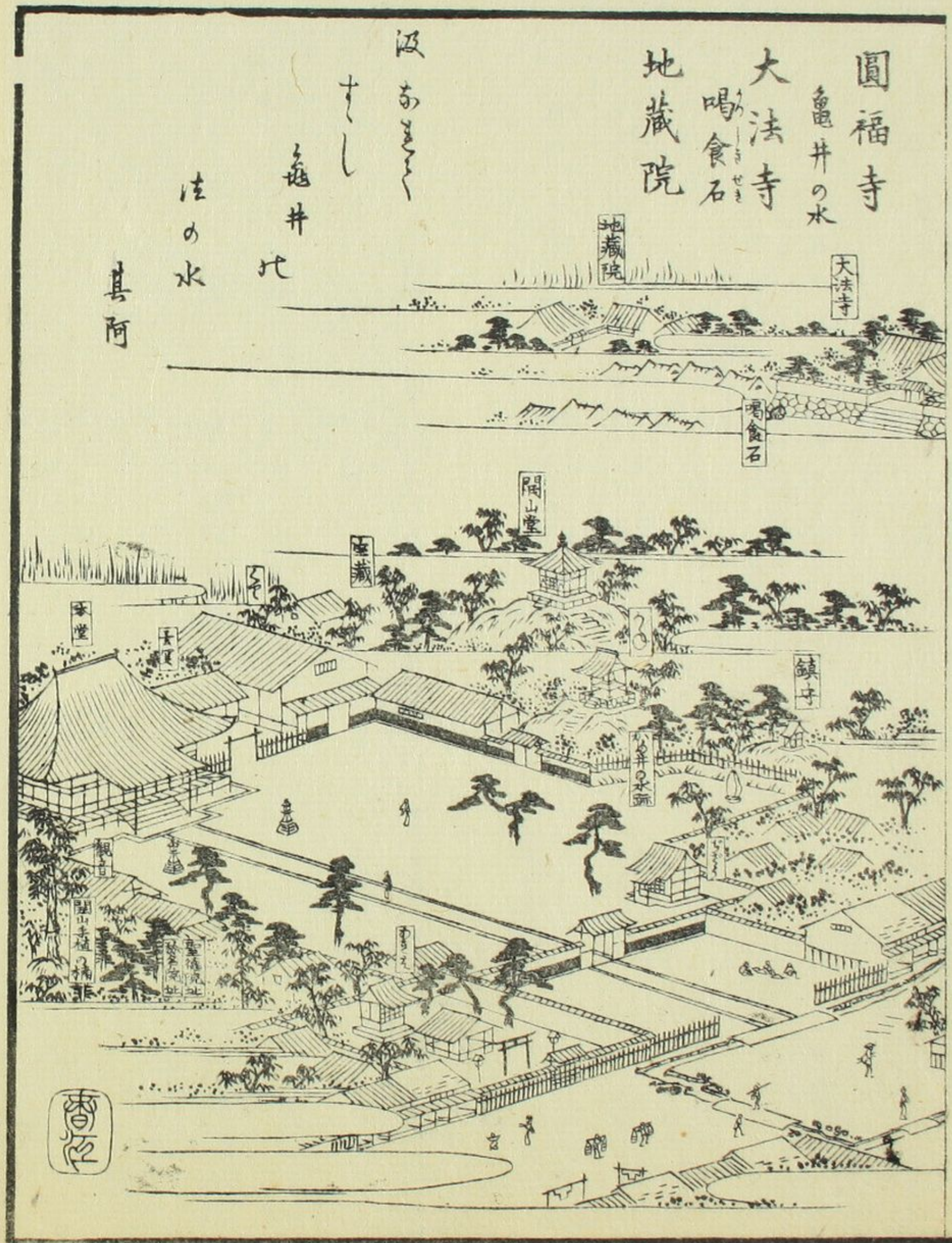
表阿上人の

鐘樓

境内に

鎮守社

地之



圓福寺

龜井の水

大法寺

喝食石

地藏院

汲あま

すし

龜井

地

注の水

其阿

龜井

本寺の北の方にけり表阿上人と書いて井と堀ありけり更に水溜りありて  
 井中に入りてるに龜の甲地底にまゝるる度大ありてけり初めは伏魔の真に  
 比地の蓬萊ありてとてけり其井と封じて龜井と名づけ山号に改めて其地す

**二葉楠** 由流り 寺寶百韻連歌懐紙 永享四年九月十三日普度院殿自  
 表阿上人三百五十四回忌 兼後少輔表阿八義教の御三教

**短冊** 表阿自 追福和歌四卷 表阿上人三百五十四回忌 織田大和守達  
 永正十五年午上月日とあり又日人の書状ありて長考此書巻毛利於

**勝の制札** 助良勝作久る左京亮信直千秋加賀と範定那古野法立郎勝春ホ数十  
 人此書状又豊且秀頼の神宮とに書進りて本寺に 芝居地 明暦二年あま境

許ありて奥山津九守神皇勅詔ありて及古ねと奥山津芝居のりてのりて  
 因に云々とありて芝居十五段ありて古ね津城津遠望の付と法皇とて人者ありて女と多く

了と来て勢田の阿とて是に持女とて千并女と無りけりにか法正の是將武  
 人勢田一使にけりては芝居のむら開けのりてのりてのりてのりてのりてのりて

是將のつと書けるは是將のつと書けるは是將のつと書けるは是將のつと書けるは  
 是將のつと書けるは是將のつと書けるは是將のつと書けるは是將のつと書けるは

是將のつと書けるは是將のつと書けるは是將のつと書けるは是將のつと書けるは  
 是將のつと書けるは是將のつと書けるは是將のつと書けるは是將のつと書けるは

是將のつと書けるは是將のつと書けるは是將のつと書けるは是將のつと書けるは  
 是將のつと書けるは是將のつと書けるは是將のつと書けるは是將のつと書けるは

是將のつと書けるは是將のつと書けるは是將のつと書けるは是將のつと書けるは  
 是將のつと書けるは是將のつと書けるは是將のつと書けるは是將のつと書けるは

是將のつと書けるは是將のつと書けるは是將のつと書けるは是將のつと書けるは  
 是將のつと書けるは是將のつと書けるは是將のつと書けるは是將のつと書けるは

澤野山西福寺

本寺の北の方にけり表阿上人と書いて井と堀ありけり更に水溜りありて  
 井中に入りてるに龜の甲地底にまゝるる度大ありてけり初めは伏魔の真に  
 比地の蓬萊ありてとてけり其井と封じて龜井と名づけ山号に改めて其地す

本寺の北の方にけり表阿上人と書いて井と堀ありけり更に水溜りありて  
 井中に入りてるに龜の甲地底にまゝるる度大ありてけり初めは伏魔の真に  
 比地の蓬萊ありてとてけり其井と封じて龜井と名づけ山号に改めて其地す

本寺の北の方にけり表阿上人と書いて井と堀ありけり更に水溜りありて  
 井中に入りてるに龜の甲地底にまゝるる度大ありてけり初めは伏魔の真に  
 比地の蓬萊ありてとてけり其井と封じて龜井と名づけ山号に改めて其地す

本寺の北の方にけり表阿上人と書いて井と堀ありけり更に水溜りありて  
 井中に入りてるに龜の甲地底にまゝるる度大ありてけり初めは伏魔の真に  
 比地の蓬萊ありてとてけり其井と封じて龜井と名づけ山号に改めて其地す

本寺の北の方にけり表阿上人と書いて井と堀ありけり更に水溜りありて  
 井中に入りてるに龜の甲地底にまゝるる度大ありてけり初めは伏魔の真に  
 比地の蓬萊ありてとてけり其井と封じて龜井と名づけ山号に改めて其地す

百合若大目の故跡と云ふ地は必日本式を通過して居り一所あると一海下に合せては豊田地に百合若の古跡と云ふ頗技あるに似たりと云うべし越前此幸若の楽曲に依り若大此曲を傳へて居り又豊後國船居今の府内に在りし幸若の草也山万壽寺に百合若及び三むすの万壽姫の住牌ありて是れ今日本式を傳へて居り

**織田侍從信孝出生地** 信長家の元にて出生せし者一永祿元年一月の内に生駒氏にて見信忠と目録ありては信孝の母三人と出產せし者一人ハ三脚殿信雄の母に男に定らる今一人ハ三脚殿信孝の母に定らる今一人ハ三脚殿信孝の母に定らる今一人ハ三脚殿信孝の母に定らる

三脚殿信孝の母に定らる今一人ハ三脚殿信孝の母に定らる今一人ハ三脚殿信孝の母に定らる

金龍山天祥庵 中野町にある一寺也其母寺末にて其母寺の塔忠々に仕へ二奈津所にて分祀せり下方三郎が二男の僧とあり居ると信孝の母に定らる

近々名

金寶山地藏院

因所石橋と云ふ所にあり

當山ハ八人皇九十四代

花園院の御宇文保元年收權太輔奉忠の室冥福のため幡

屋村に開基一全海法下と清とて開山といひ奉忠湏念殿小

由縁ありて其室に力王子に称号幡屋村の内に寺地

と云ふ其砌ハ寺門も廣大なりて大伽藍の併場ありと云ふ

小星霜二百五十餘年と経て大に破壊され基趾と云ふん

り以時に天正四年今此地にり則政堯法印と中興の開

山といひ○本尊 地蔵菩薩を尊と云ふ大師の作眼攫不動明王ハ

現寺寶 足利尊氏公像 土佐先信華あり小具足馬上に後像の彩色

て是古十種 地藏菩薩画像 足利尊氏公の自画像ありて上に夢中を

所極し四行ありて末に文和三年六月廿一日仁山普為大平越前守

元年三月十五日貞和五年七月十八日永享八年七月廿七日文安四年六月廿日室徳

四年正月十二日文正元年五月朔日中瀬刑部と云ふの厨家親已下十二人連署の狀に

幡屋に居る寺西八まんくこの堺より玉井強西方堺まで未代地着院為付ぬ  
去辰之林堀を任持伊沙法を修理も他の十ヶ村を儀出件と見えたり其間過し  
系ハ今大福田社の地に旧名あり王の井と云ふも此の所なり  
ついはくは、惟るより、此地を院の敷地の廣きと考ふに足る

### 禪徳山大法寺

日新に成り、條條宗、妙心寺末元和、本尊 釈迦佛蓮、唱  
三年、藤田民部少輔、安重、の建、立、り、

### 食石

門前、に、あり、言、さ、二、尺、地、上、に、あり、法、苑、

### 圓融山瀧之坊

堀内町にあり、天台宗野田密院末天文二十年良温法印を  
郡古井村よりうつて、後田徳後古信秀中興す信長、公、知、年、の、時、  
此寺、も、手、智、也、と、い、ひ、に、は、り、宗、長、手、記、に、天、永、五、年、三、月、廿、七、日、堀、田、の、官、社、  
赤、宮、に、あり、し、に、お、風、外、ま、び、て、津、に、非、代、お、か、や、社、内、に、中、外、の、法、儀、の、外、  
々、や、宮、の、お、く、く、き、め、き、ま、で、汐、の、浦、干、鳴、海、屋、修、杜、の、木、の、原、に、伊、勢、の、伊、子、と、い、  
ふ、此、地、を、た、か、さ、の、も、た、り、し、て、平、尾、孫、右、衛、門、の、坊、奥、に、筑、前、守、職、東、り、し、り、  
お、く、ま、は、ま、の、も、の、を、于、は、津、津、人、の、に、お、か、し、に、お、か、し、に、お、か、し、に、お、か、し、に、  
お、く、ま、は、ま、の、も、の、を、于、は、津、津、人、の、に、お、か、し、に、お、か、し、に、お、か、し、に、  
お、く、ま、は、ま、の、も、の、を、于、は、津、津、人、の、に、お、か、し、に、お、か、し、に、お、か、し、に、

### 本尊

虚空蔵菩薩 寺宝 信長、公、所、持、此、重、の、硯、七、つ、は、お、お、一、抽、妙、法、  
院、常、流、法、親、王、の、御、筆、涅、槃、像、地、殿、司、の、筆

### 法堂

宗、碩、  
宗、碩、長、子、宗、碩、と、い、ひ、に、お、か、し、に、お、か、し、に、お、か、し、に、  
宗、碩、長、の、文、卷、と、い、ひ、に、お、か、し、に、お、か、し、に、お、か、し、に、

### 夢違觀音

馬場町にあり、天台宗、本尊、  
宗、碩、長、の、文、卷、と、い、ひ、に、お、か、し、に、お、か、し、に、お、か、し、に、  
宗、碩、長、の、文、卷、と、い、ひ、に、お、か、し、に、お、か、し、に、お、か、し、に、

### 池殿屋敷

今池坊を賣りて、多びて誓願寺の地、其地、平大納言頼盛と池殿  
いひ、後、より、平治の乱に、頼盛、知、無、し、て、死、刑、に、お、か、し、に、  
て、は、ら、ら、に、罪、を、宥、め、助、命、せ、し、り、平、尾、孫、右、衛、門、清、盛、と、い、ひ、に、  
源、平、兼、家、記、平、家、お、借、も、に、あり、し、り、大、納、言、の、子、と、考、易、に、お、か、し、に、  
源、平、兼、家、記、平、家、お、借、も、に、あり、し、り、大、納、言、の、子、と、考、易、に、お、か、し、に、

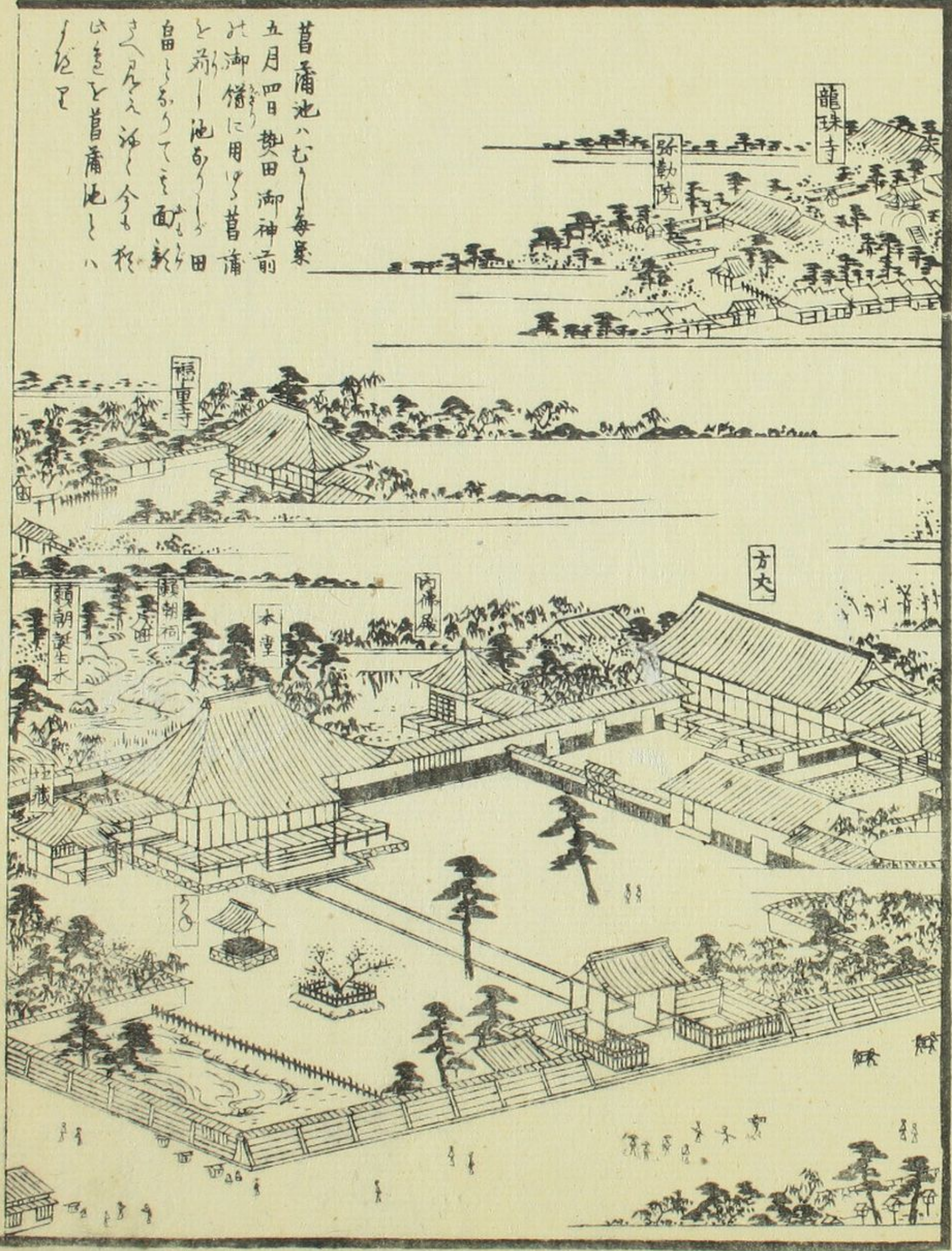
### 妙光山誓願尼寺

幡屋町にあり、浄土宗西山派世々誓願と、當寺ハ享禄  
勅許せし、豊田上人と稱す

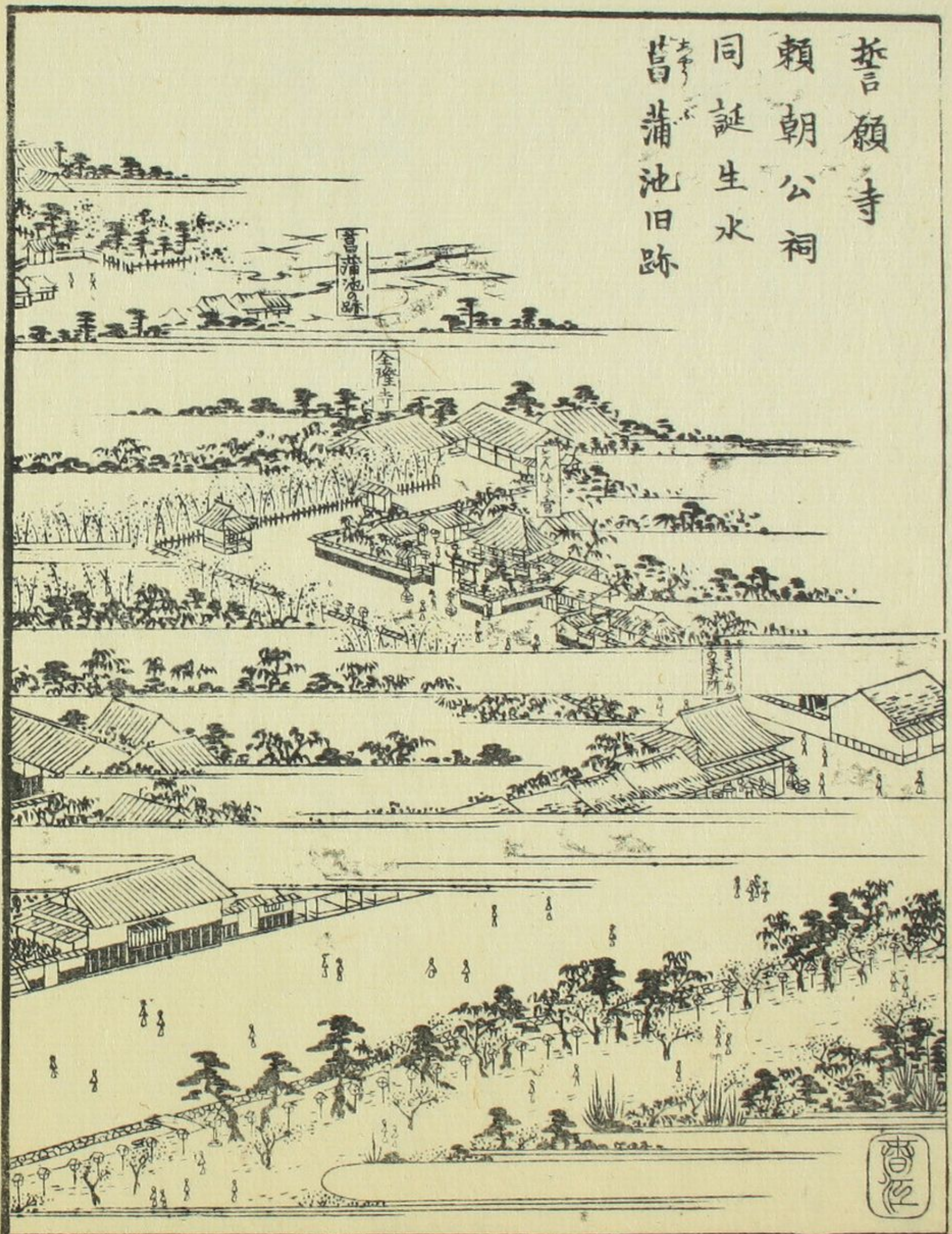
二年の創建より開山八日秀妙光尼有り日秀ハ愛智郡小林村  
の住人山田友成の女と云ふ、吉野右馬先、に嫁せしが右馬先、越  
前より我死せり、バ愛別の憂に沈み、翌年十九築、り、て、信濃國  
善光寺に詣りて、剃髪して、善光と号して、寺を建立し、佛  
師と云ふり、拓き、弥陀の尊像と刻み、安置し、元龜元年五月  
五日上人の号を、勅賜せり、天正十九年、豊臣太閤の御母大政  
所、け、寺に、と、治、し、給、ひ、園、白、秀、次、の、寺、境、と、増、附、あり、又、慶長  
の、を、め、り、三、都、と、稱、し、豊、臣、秀、頼、の、御、母、に、お、か、し、に、

に必、應、法、あり、き、り、事、あり、  
左、ふ、と、遠、の、教、を、し、通、稱、す、

昔蒲池ハむらへ海  
 五月四日 勢田御神前  
 此御僧に用ひ昔蒲  
 と名けし池ありし  
 自今もてそ面  
 久しんえ池今も  
 比と昔蒲池ハ  
 一色也



誓願寺  
 頼朝公祠  
 同誕生水  
 昔蒲池旧跡





崇源院君ホに云伝と勅まつりてしるすまじく清冠遇に預り

日六年二月十日遷化ありけり。往生のみまじく紫雲をまじき系

竹音楽きこえて奇瑞の相とありけり。其後元和六年東福

門院御所より源教云へ作て寺領寄附し給へり。○本尊

有弘院 鐘樓 天正元年信長長谷川を五郎に命じて鐘樓を造らしむ近江  
の木像 國油火大明神の像を返して懸らる落小元龜三壬申十一月十四日

寺寶 木牌一枚 右大臣豊臣秀頼云の真筆なりて 堂前額 豊  
院尊朝法 親王御手

右大將頼朝公誕生地 聖武寺の境内に於て此其社ありては寺法  
守に例ありし由他に今に被奉遷の地と稱す 神

皇正統録に久安三年四月八日源頼朝誕生是左馬頭義朝之

三男母斐田大官司藤原季範之女也。志保一劍卷に日本

武尊とせ給ひ白鳥と化して飛去り給ひ尾張國に居り

はり給ひ二流の白旗と見えけり。たそこと幡屋と名つけり

右き清佐頼朝の事代源氏の大將と成べき所少や彼幡を少く

しと給ひ一則この事なり 其一代のりまの東院及び  
安達威長聞書小に

官位昇進の事ハ公卿補任公卿傳等に記しける由は人の如く所をばりしと畧し其  
薨逝の年月ハ東院ハ正治元年正月十三日五十二歳にて薨せしむる

百練抄保曆間記兼久記等の法書に見えたり。然中東鑑建文元年の条に十月廿  
七日御寮齊令奉幣斐田社給依焉外戚祖神珠被致中心之崇敬。云々。後神馬

御劍等夜々奉給りし。云々。公 凡天下に乱逆と法り征夷大將軍と  
は地に是とありて國ありし。云々。 草創し給ひ 武将五君は

武と云天下と法り此規範あり其草創の五君と稱すハ頼朝公

尊氏公 信長 秀吉公 神君ありし。云々。頼朝云ハ幡綾信長云ハ

那古野秀吉云ハ中村の出生日本度と云ふ。五君のうち此三

君尾張一國より出給へり。此に右國の眉目いふに斐田大津武津

小まじく 國家鎮護のりかゝる武將と生長し 乱逆と法り給へり

所より尋常の奇遇にあつた 其の外織田を長と家旗下に居せり。云々

田橋田中野松岡平手赤座内友依文彦池田依久森加友福島輝頼賞小出伊友

平野颯川小寺。勇將極士の由小におせり。千と云ふ。云々。 義生祖来と  
まじりて日本に英雄大形ハ尾洲出たり。豊浦南陽の昔と思ひわ  
津に不思議あり。云々。又信景ハ尾張人物志の跋ふと。是と稱せり。

龜寶山福重寺

長尾右近の建主少く吉蓮山福聚寺と云ふは後今の文事に改む右近の長尾右近の建主少く吉蓮山福聚寺と云ふは後今の文事に改む右近の長尾右近の建主少く吉蓮山福聚寺と云ふは後今の文事に改む

白鳥

白鳥の陵は西條川の岸にあり

日本紀古事記と云ふに神皇正統記に

日本武尊崩落して伊勢國能褒野におきりたまふに白鳥と成

平東夷未還豊尾張國矣と云ふて此國少くかくと云ひ

東國に飛返る尾張國松坂島に飛落ひぬ

と所と白鳥塚と名づけり記せり白鳥の陵は也にり

地名とせり

地名とせり

白鳥山法持寺

白鳥にあり曹洞宗

室徳元年明谷義光和尚の中興

ありむり弘法大師此地に來り契田社に百日未籠して行法を

修せしとける其惟に地藏菩薩の像と彫りて寺此本尊とす

と寺傳にんんりさるる曹洞宗日本に開創せり以前より

契田に在り古刹あり

當寺ハ地民屋より遙に石礎とた

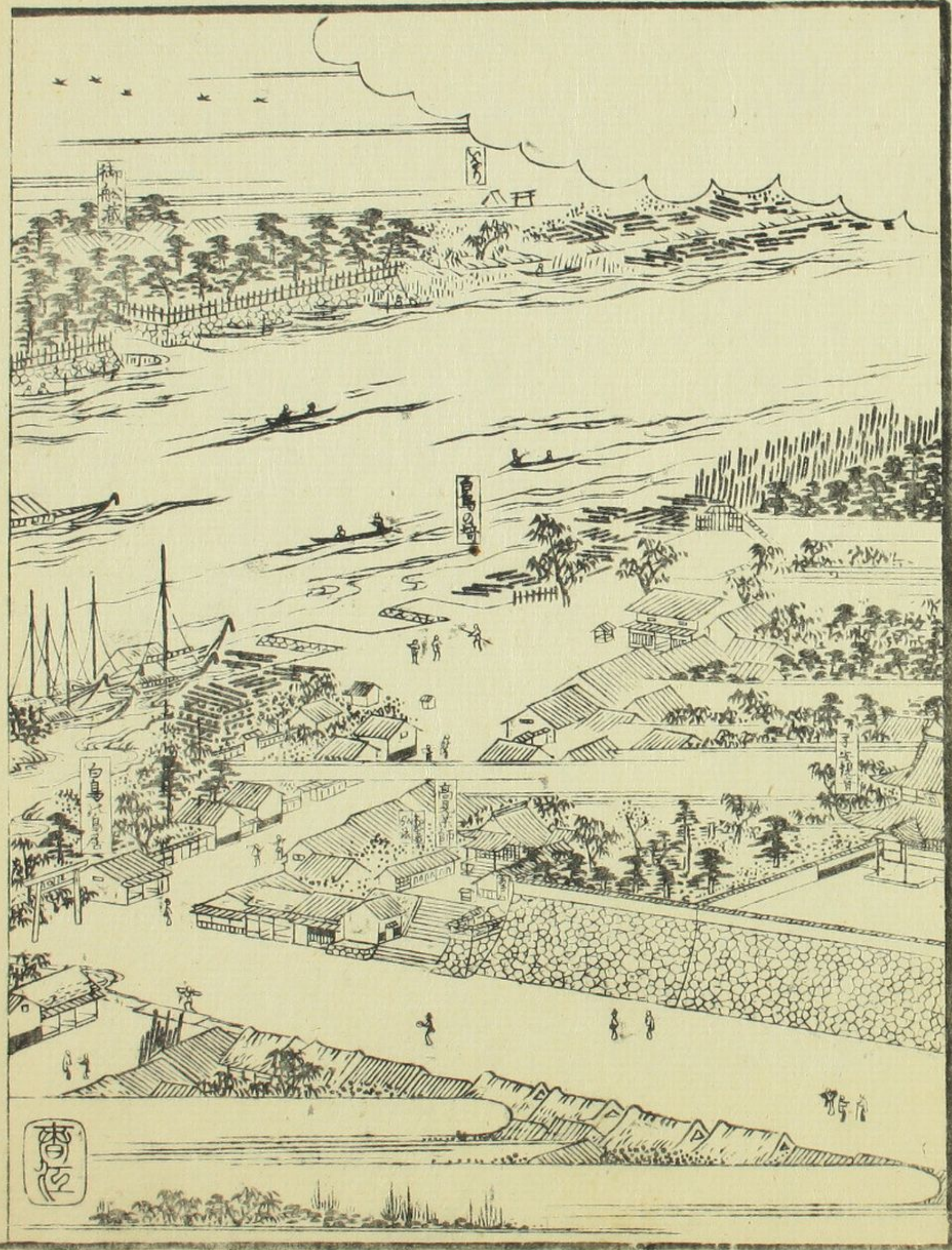
石垣築牆巖重にかゝる一臺塔魏

蒼海と眼下に尺あり西に御船

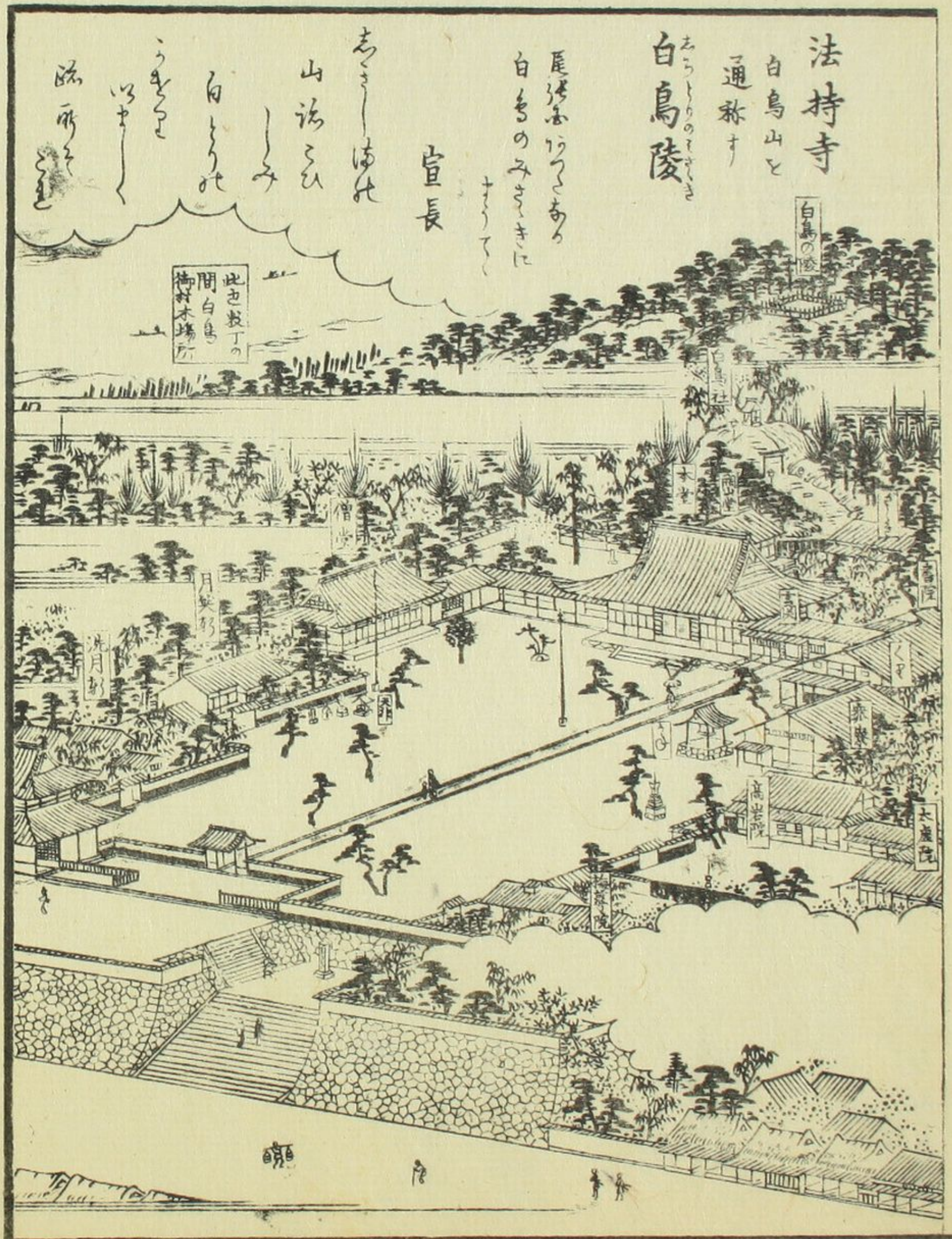
本尊の像ありと云ふに雅境の好風あり

白鳥陵 本堂北にあり南にあり

石権と納り契田秘教見聞抄に白鳥塚者大明神ノ御墓塚也



白鳥



法持寺  
白鳥山と  
通称す  
白鳥陵

尾張ふらつとある  
白鳥のみさきに

宣長

あまのほれ  
山法と云

白鳥

白鳥  
山法と云

此は坂丁の  
間白鳥  
御本場

中ニ馬腦石ノ塔有座ハ葉也又塚ノ中九穴八葉ノ九尊各住  
 所有也ト云々其文義も亦も今も有りて定有る也  
**塔頭** 高岩院大虚院梅亭院  
 月笑軒 洗月軒あり  
**臨濟山龍珠寺** 首蒲池に有り條條家系妙心寺未天文元年如友延隆入道全朝  
 の建立あり関山南眞紹化和尚ノ博守多末はくはくありて其院に在り

世に信長ニ長法へ出陣有り一時士卒劫劫とありは信と生捕ておとせける傍の  
 我を負けて一木の出たきあり我ハ只あありしお談入用の長行るに立てしと云へ  
 けはハ改裝するにありおのまが尾尾にけれりまを人ありハ賞三として具してゆり  
 黒田一宮おとあありいゆぬさ中言まうにのりてたれはさあつり初坊に  
 とのを賣んといふごとくおひりりお熱四にありけは所のものわく次才と間に南眞紹のど  
 とくまへはさくハ品人ハはありしとてお後年人入道合朝鳥目一貫文ありて買取便と解て清  
 下りげ併況と問やに何と流す  
**本尊** 釈迦  
 一丈に南眞ハ名もまき字傍あり

**清の茶屋**

天明年中の建立日ハ清火といふ茶と煮るの絶えがねハ大宮へお移れ  
 法人必ひ所て茶といひ休らひおとてお茶治するのあまはと本宮の外の  
 人ハ一杯の茶もゆりて世の接待茶事かまはし清り此茶屋ハ通稱す又ハ茶不冠  
 といふは額懸けの焼かす年々月に無くて法人の目とあらんと懸めんし別寺とまはし  
 といふは茶屋代振  
 之に云々

**金毘羅大権現**

清りの茶屋の西にあり  
 修治延命院と云々  
**夫當神** 鉢ハ京橋より尚漢州より  
 恙只小侯へ移りて時象頭山にまつ夫とてお水ありしに央り  
 て流まらるあらし何んさく取上りに神像代りし高何の神像  
 もお知らるる或取手手觀音枕上にまらひ汝が海中よりおる

南眞和尚の古事



像ハ金毘羅之汝ガ武運と守護と心おこるるに告  
 ともひて善きぬる尚有ると思ひまひて至後肉に祀り  
 して日くの後亦地へ預けまきと宝曆十年より南院に安  
 して日くの後亦地へ預けまきと宝曆十年より南院に安

下知我麻神社 鎮皇門の北に築地の外にあり 延喜神名式に下知

我麻神社本國帳に正二位下知我麻天神と見え國造小止與

命の妃真敷刀婢命と建稻種命の妃玉媛命二座とまき

神道集に斐田大明神始天下時紀大夫殿宿不借人源大夫殿雜事

宮團扇 雄屋所ニ多居の也家少くひきく皆つくつく地紙ハ彩色比若花と画き

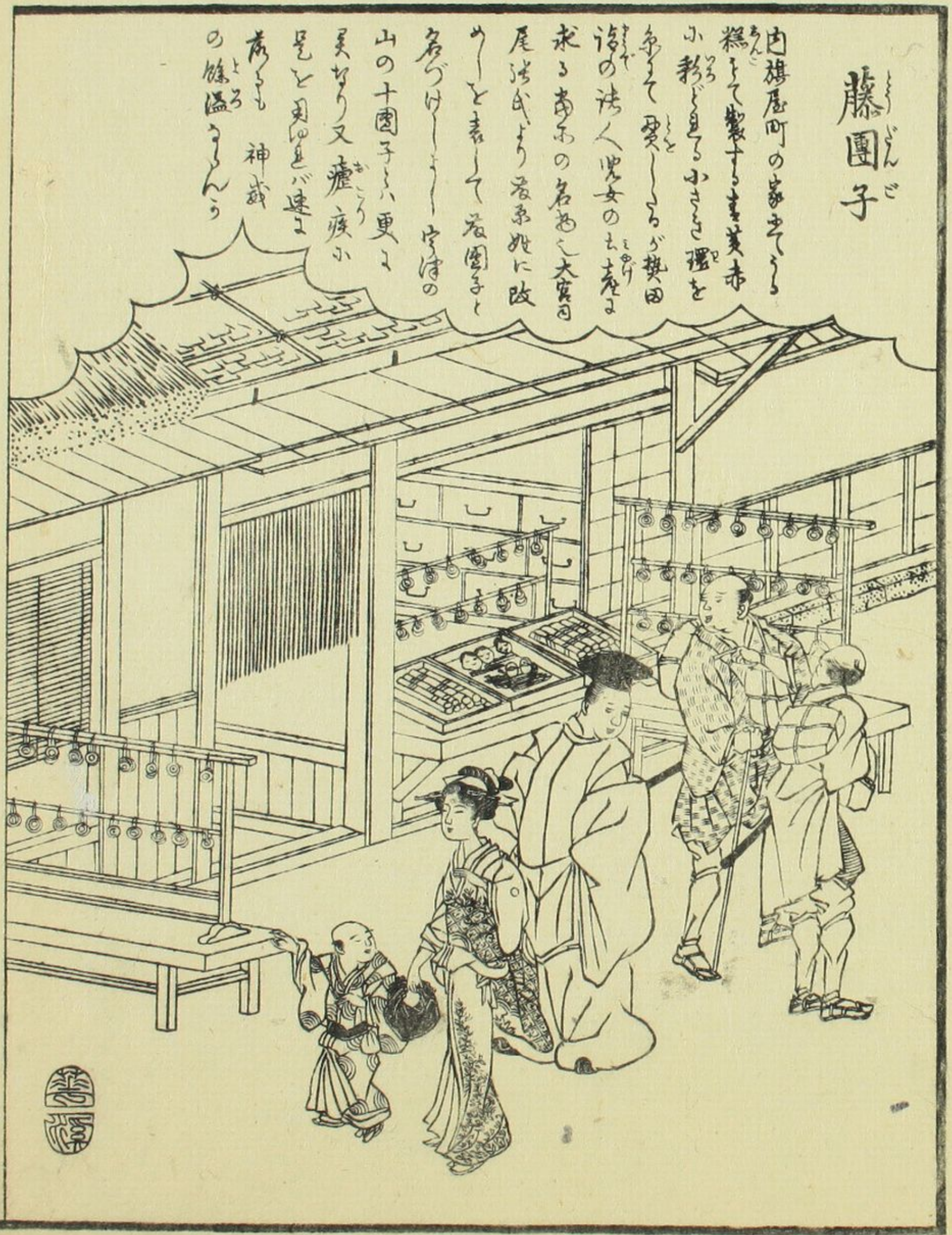
作れ妙化に比教あり或ハ地紙に繪と強山水花と画きと唐山に製に吳有匠され

土器 同所少くつくむり 南院 伊豆所村に造りて斐田大外主と製りて

座主如法院 同所にある斐田座主と稱し妻帯の社信田定坊持法坊宝藏坊高寺

藤團子

内藤居町の家にて  
 糕として製するも美赤  
 小彩として小を理を  
 多て愛するが斐田  
 海の法く世女のよき  
 求る南の名お大官司  
 尾法より若赤地に改  
 めとまきと若團子  
 名つけしは若の  
 山の十團子ハ更  
 美なり又瘡瘡小  
 尾と更の連  
 神或  
 の餘温



旗屋町  
松飾

旗屋町にまつる松飾  
元三の門松は地味な  
松より竹の枝を多用す  
まつる松飾は  
竹林にまつる松飾は人の礼儀  
を海に指し示すの意あり  
松の葉は松の葉を以て彼世は向ふ  
ある世へは美はてまつる合はぬ

延享三西暦  
南ハミキ熱田河内人  
清浦の地  
清浦の地  
清浦の地

也有

おんれ

甲  
か



墨山

嘉祥と再興して堂宇も亦優れり今ハ清浦地也

機綾里

今旗屋町より幡綾樓  
綾あしはまき古地名なり

續日本紀及び扶桑畧記に和銅五

年七月壬午伊勢尾張參河等廿一國に令して始め綾綾と織

らめらまき一池一まき一られらあやいり三人の綾綾の名

一人ハ大神宮に奉一人ハ熱田宮に奉一人ハ日本紀のり

眞俊おれははりの説ふん

清浦の地ははりの説ふん

源義經元服地

凡源氏の公達此處國に事蹟あるハ皆大官の所縁に在り

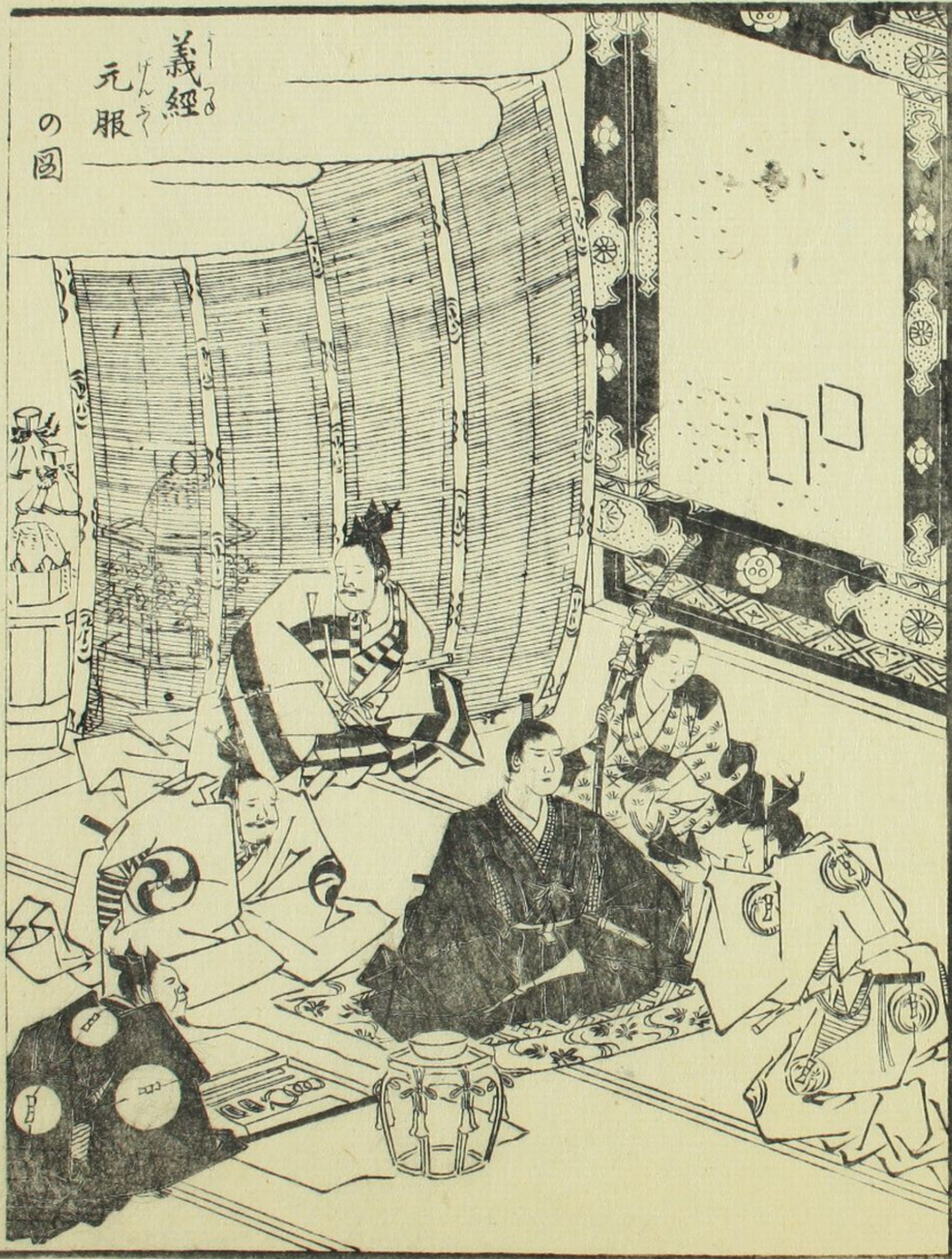
所縁の地は元服の地なり

寺と忍びわし令吉人吉次に伴ひ美の秀衛

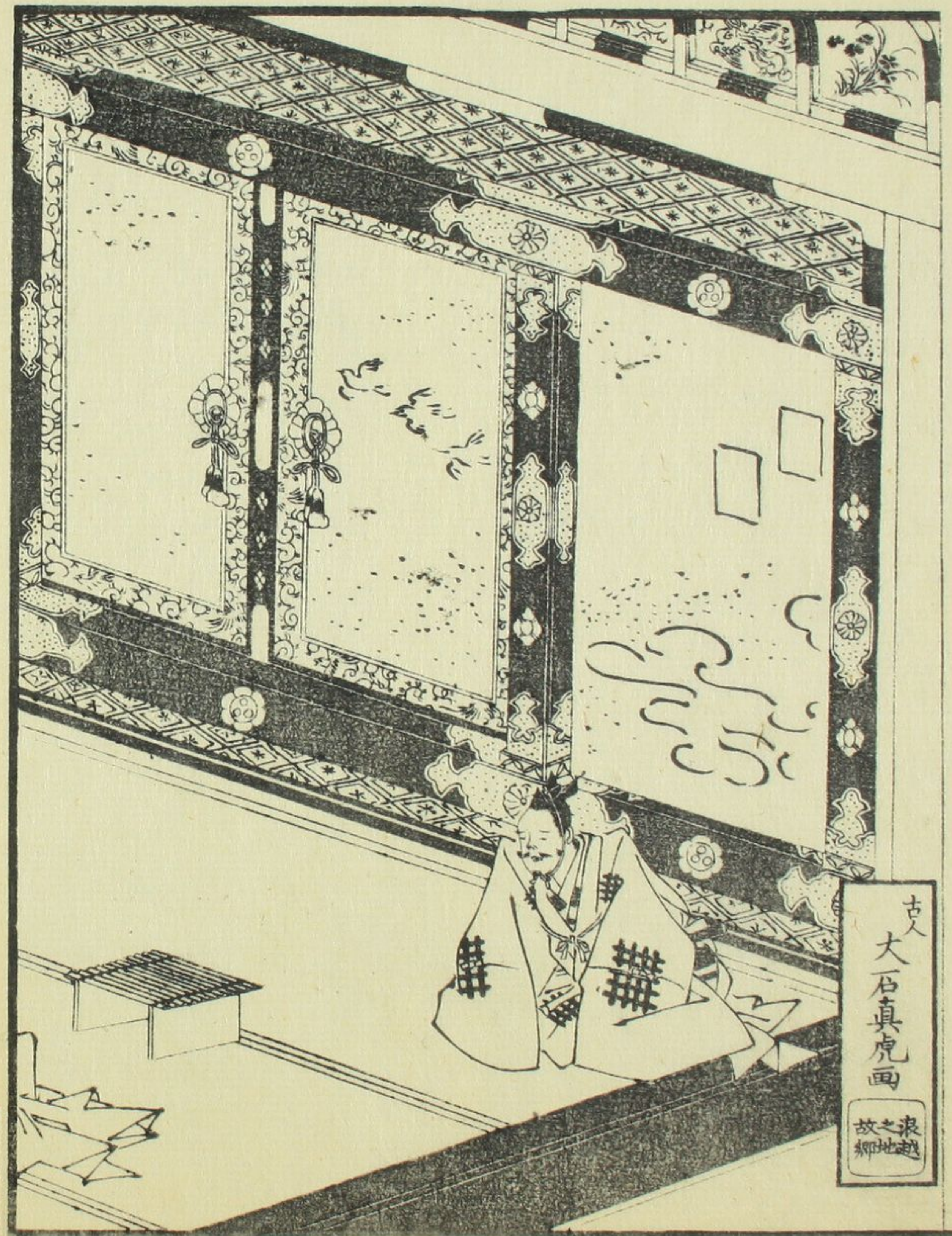
熱田の宮につき前の大官にまつる

て清浦入見三日逗留けり

彼らんとすまはる大官日為帽子とまつる別甲になり



義經の元服の圖



大石真虎画  
浪之故郷

大明神に由洋一左馬頭九郎我經と名の事々々一我經記  
見えり

鷲峰山 形丈もせけり旗本町の西の方にありて陵墓の形一丘山もさき山

より見又姓を流況新山は山に孝に人の入事と禁は三月三日に八重と  
ゆいて法人を流の身をかきむ折り焚田沼の汝子の風景眼下に見え後と  
佳し又山と嶽山と云法後ありて藤原善に尾張とけり流尻に藤山尾張山山  
とけり記してしる所の事なり或人云尾張尾土記に斧根山と云將栗郡小尾  
焚田に陵だんぬ山なりと云

夫本 大納言我經

くふそ又くふそ藤山は郭云初言少やと尋入ぬ

伊神の家はさきと有とのと流山のすまの梅麻の事 意鎮

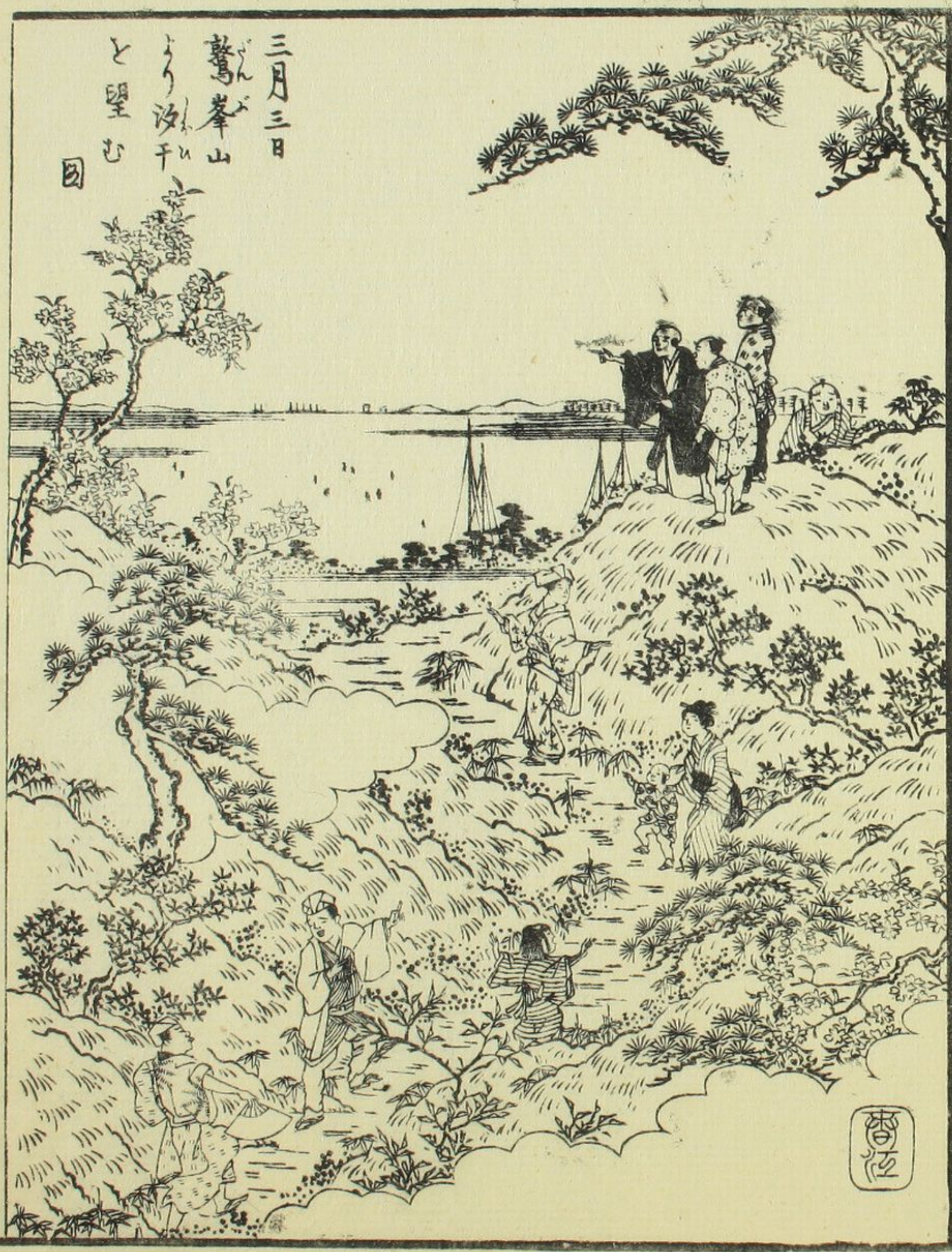
あまのせと流山のすまに分れて神よとく小田原の事 止寂蓮法師

連てり流山もあぬ白をれさきの世さきの女の事 従二位行家

衣川流山の流の志ちと初ぬまらふと云枕 西園寺入道

雪ふまはのり藤山や若ぬん名の梢につくみあやう 順徳院御製

藤山進歩男の身小ハあゆむらぬ歎きと物さ苦き 孝吉



三月三日  
鷲峰山  
と望む

香



奉納千首和歌  
おらうあやや福山のゆき推のこころと春ふりて  
長伯

又藤山と岡郡の中根山とて夜もあつて春もさうか一定ふりて  
波尾

の介れ古多ハ中根山の幸に擧げて程好考とま川のゆき

將軍塚  
北山に有り七月十三日高野聖の御燈と云ふ事あり高野此足祖  
の女ハ信と云はれ妻ありたに被との神と云はれ高野と云ふ事あり

六地藏堂  
丹波山に在りて中野郡一宮波岸の地蔵堂の二姉ありて又  
伴ありとの次中野郡一宮波岸の地蔵堂の二姉ありて又

小折村極聖地蔵堂三契田信を地蔵堂中野郡四色郡以海村本町の  
地蔵堂中野郡根高の地蔵堂中野郡六角堂の地蔵堂あり

宮谷観音  
新谷中野郡本例にあり名古屋修持清  
壽院に在りて高野三十三観音の一あり

夜寒里  
高野表の南にあり今ハ里なく田畑のみありて古名のこま  
行及び藤原系ね葉集に尾張の名所ありと云ふ事あり高野の里老ハ夜  
寒里とありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり

其書里あり  
高野表の南にあり今ハ里なく田畑のみありて古名のこま

神  
高野表の南にあり今ハ里なく田畑のみありて古名のこま

あり吹散をの里のゆきありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり

まへゆにありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり

神波伯頭仲

前右兵衛督  
頭仲

式部門院卿臣

夜寒里古覽

家集  
天は外

いゝあそ

甲人や

月を也

衣うらや

元可法師



西

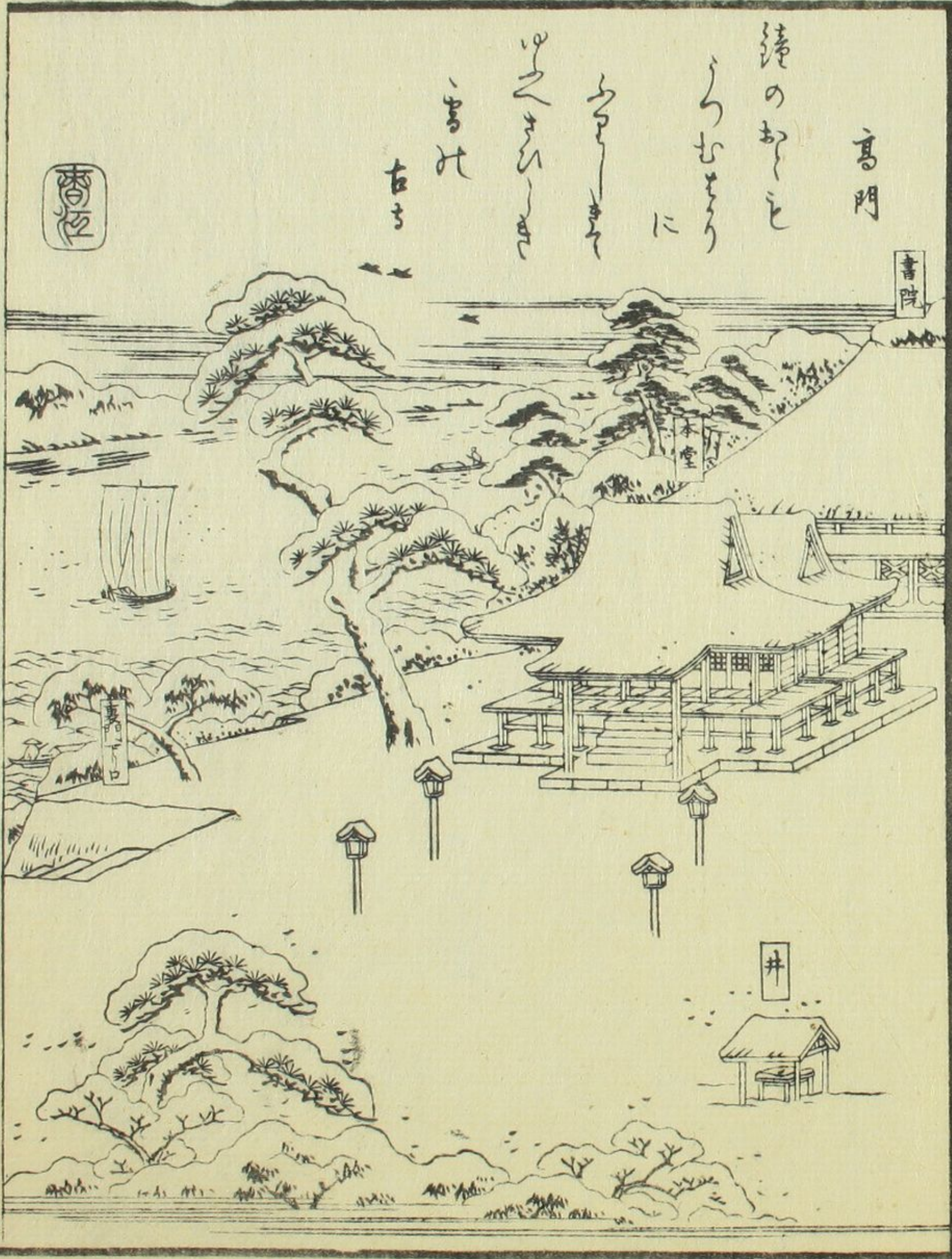




桂河  
月夜  
林ノ那  
芝石  
風此  
まきる  
わ



高藏宮  
夜寒里  
仲實朝臣  
法天しまに  
まきる  
まきる  
まきる  
まきる  
まきる



奉りけり

防丘詩選  
 密竹疎林晚新霜物外遊雁時遠通侶風送去來舟  
 江邊一字倚清秋西嶺影傍兩岸浮坐久翠嵐當檻  
 盡望來白水泛舟流樓高聊啟傲王繁詩就無妨問  
 慧休料得此間塵外境暫時官暇好來遊  
 泰翁  
 淨域風涼不待秋悲關上意悠々暫逃火宅人間  
 苦聊作雲林物外遊驛路通前宮北畔水村接後澤  
 東頭無端惹起歸時興欲就漢家借小舟  
 春秋樂  
 春如夢  
 木陰  
 五雄

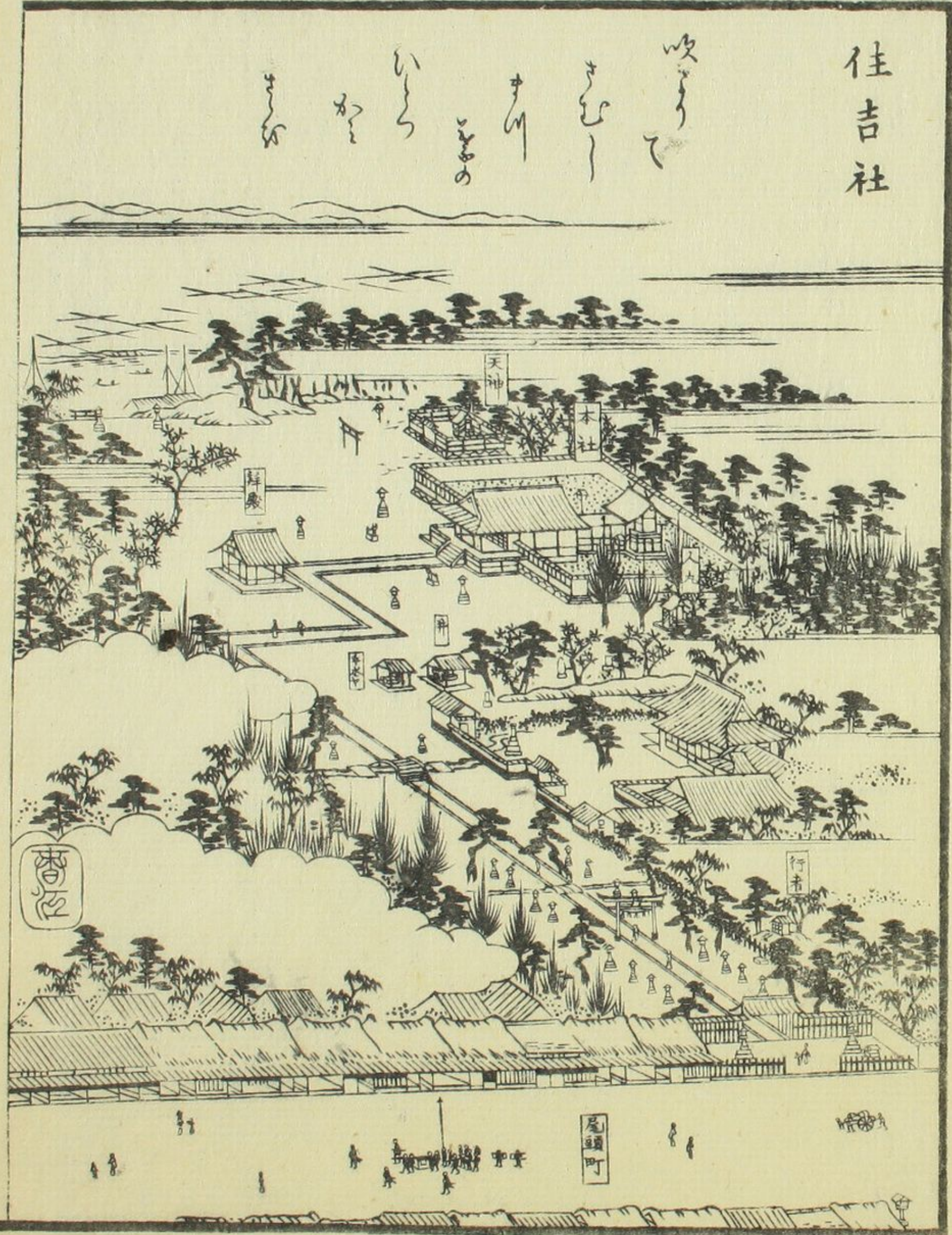
わらわら〜傳了日す〜木陰外  
 枇杷島

住吉社

尾頭町西側にあり〜と坐落十二年三月一庵と幸幸〜黄檗宗東  
 輪寺より栢禪和尚末〜住持り社地尾川岸下地〜西の芳野にのり  
 本社祭神底筒男命中筒男命  
 末社天満宮 保安天神の画像  
 人丸祠 秋巧の作て  
 所持せり 三月十五日八月十五日  
 古木陰に 例祭

金山社 一の多居北東にあつて金山彦命天目一命安田彦修理権の権治尾崎彦四郎  
 の祖代〜に依り〜兼和の以を管内に勧誘せ〜に徳永年中大宮自れ命により  
 中洲町に移治せ〜と移〜と近年名古屋に渡治又渡治

住吉社



高買の者より修復と想て花巻ありはとある二季の津より彼屋津より津供米と訪す  
此家古より一血通統て今も於業を又十一月八日に八人輩とあせり社の木の畑中に  
大あり石りりんの石より地蔵とていひありて瘡とあひとの祈りすに必あり  
あり又金山の南にわたりて岨とあせり母すにとも亦津津河の津あ甲の佐つらり  
字に於き

古城址

金山社の東にあり世に城畑といふ養和元年三月十日新納進討の馬頭中將  
重衡推少の維盛本國へ下り居たり新倉十郎彦人行家卿と義國尾  
張國平保の系より戦ふ義國ハ討死す行家も引退きわたり所に陣とて又  
も退居され尾張を打ち取らるる名に伝と取平家ハ陣とて引退きわたり所  
ありとも退居されて豊田の真引退きを家と傳とて引退きわたり所  
豊田とも退居されく三河國矢野の東の岸に城と傳ふり盛衰池にふりり  
の城跡といふ古老といひ傳ふ城跡の形

佐屋街道標石

北と名をなすもと豊田といふは西と三所の標といふべし

尾張名所圖會卷之四終

熱田之部 深川忠豊全撰

